

科目名	単位数	時間数
基礎看護学実習 I	1 単位	4 5 時間
目的：1. 病院で生活しているその人の生活と看護の実際を知る。 2. 療養の場におけるコミュニケーションの意義・目的・方法について理解を深める。		

学習項目	学習目標	学習内容
対象理解	<p>1. 対象の生活と療養環境を理解する。</p> <p>2. 関係構築のためのコミュニケーションを理解する。</p>	<p>1) 対象の療養環境について述べる。</p> <p>(1)病院の構造・設備、機能と役割について知る。</p> <p>①診療機能の特色、病院組織の説明を受ける。</p> <p>②病院各部門の特徴と機能の説明を受け見学する。</p> <p>(2)病棟・病室・病床の構造と設備について知る。</p> <p>①病棟の構造・設備・備品の配置、感染防止対策、安全対策</p> <p>②看護体制、職員構成</p> <p>2) 対象の日常生活について述べる。</p> <p>(1)対象の 24 時間の日常生活の把握</p> <p>①スケジュールや食事・排泄・活動・清潔・整容・レク等の状況把握</p> <p>②治療処置等の時間帯・日常生活援助の時間帯</p> <p>(2)入院による生活の変化について</p> <p>①自宅と入院による生活の変化に対する気持ち</p> <p>②症状や検査治療環境に対する気持ち</p> <p>1) 接近的コミュニケーションを実践する。</p> <p>(1)接近的コミュニケーションの前提となる基本的態度の実践</p> <p>(2)接近的行動の実践</p>
アセスメント	<p>1. 対象の状態に「気づき」、その状態を推論することができる。</p>	<p>1) 体験した場面（事象や状況）に対しての「気づき」をきっかけに、対象理解や提供されている看護の意味付けをする。</p> <p>(1)「おや」「どうして」と興味関心を持つ</p> <p>(2)なぜかを手掛かりに、情報を集める。</p> <p>(3)その脈絡でその意味や理由を考える。</p> <p>(4)提供されている看護の理由を知る。</p> <p>(5)自分の理由付けについて考察する。(クリティカルシンキング)</p> <p>2) 1) を展開するうえで、観察やコミュニケーションを使って情報収集ことの必要性和効果を体験する。</p> <p>①患者とのコミュニケーションを通して情報を得る。</p>

<p>生活援助技術の獲得</p>	<p>1. 看護師の援助方法を既習の知識と照らして考察する。</p> <p>2. バイタルサインを測定する。</p>	<p>②看護師とのコミュニケーションを通して情報を得る。 ③患者の思い（ニーズ）を知る。</p> <p>1) 援助場面に同席して、看護師の援助方法を既習の知識と照らし合わせて考察する。 (1)対象の安全・安楽・自立にむけて以下の視点で考察する。 ①原理原則に基づいた援助技術 ②対象に合わせた援助技術 ③ニーズに対応した援助技術</p> <p>1) バイタルサイン測定を実習指導者・病棟看護師・教員とともに体験する。 ①正しい方法（正確な手技）での実施 ②患者に苦痛を与えない方法での実施 ③誤差のない数値での測定</p>
<p>チーム医療（連携）</p>	<p>1. 学生同士（チーム）で連携できる。</p>	<p>1) チーム内で決められた約束を守り、役割を自発的に果たす。 2) チームでの活動に支援的な行動を示す。</p>
<p>態度</p>	<p>1. 看護者として必要な態度を養うことができる。</p> <p>2. 学習者としての態度を養うことができる。</p>	<p>1) 看護者としての必要なマナーを実践する。 (1)その場の状況にふさわしい行動をとる ①対象を尊重し不快にさせない ②ニーズを知ろうとする</p> <p>2) 適切な情報管理を実践する。 (1)記録物の管理・記録の匿名性の遵守 (2)守秘義務を守る</p> <p>3) スタンダードプリコーションを確実に実践する。 (1)手指衛生の正確な実施 (2)個人防護具の活用 (3)感染廃棄物の取り扱い</p> <p>1) 予見行動をとる。 (1)実習内容・実習方法を理解して準備する。 (2)リフレクションを活かして準備する。</p> <p>2) 遂行／意志コントロールの行動をとる。 (1)機会を逃さない。休まない。 (2)実習目標に対して日々意図的な姿勢で臨む。</p>

<p>看護観</p>	<p>1. 実習での体験から看護に対する志向を深めることができる。</p>	<p>①より良くという姿勢 ②指摘されたことや課題に対して改善して臨む。 (3)実習日程に合わせて、記録を整理する。 (4)指導・助言・カンファレンスを活用して学習を深める。</p> <p>3) リフレクションをする。 (1)経験や行動を客観的に振り返り、自分に対しての課題を明確にする。 (2)グループワークやカンファレンスで学びを共有する。</p> <p>1) レポートを作成する。 テーマ：臨床看護師と自己のかかわり（具体的な場面から）を通し、「看護」について気付いたこと。 (1)サブテーマをつける (2)影響を受けた出来事や人物との関わりを丁寧に振り返り、その時の状況、あなたの感情、そこから得られた気づき（看護に大事なこと）を言語化する。 (3)なぜその姿にあこがれるのか、どのような要素に魅力を感じるのかを明らかにする。 (4)自己の課題（経験の振り返り）や成長に向けてどう努力するのかを具体的に表現する。</p> <p>2) 他者と看護観を共有する。</p>
------------	---------------------------------------	---

科目名	単位数	時間数
基礎看護学実習Ⅱ	2単位	90時間
目的：看護過程における「観察」の段階・アセスメントの枠組みを活用して対象の理解の方法と日々の看護を展開する。		
目標：1. 対象の情報収集ができる。 2. 対象の健康を判断できる 3. 対象に合わせた日常生活援助技術の方法を理解し実践できる。 4. 実習を通じて看護学生（看護師）としての態度を養う。		

学習項目	学習目標	学習内容
対象理解 (アセスメント力)	1. 対象の情報収集ができる。	<p>1) 観察を適切に実施する。</p> <p>(1)関心をもって関わる</p> <p>①対象者に常に関心を寄せ、「小さな気づき」に焦点を当てる</p> <p>②コミュニケーション技術の活用 ・接近行動の実践・傾聴の技術・情報収集の技術</p> <p>③対象の訴えやニーズを引き出すような関わり</p> <p>(2)適切な方法で関わる。</p> <p>①情報源を多く持つ。</p> <p>②目的を持って情報収集をする。</p> <p>③特定のアセスメントの枠組みを選択しそれに沿って情報を収集する。</p> <p>④フィジカルイグザミネーションの手法の利用 バイタルサイン測定の実施</p> <p>2) 対象をより正確に理解するための情報を得る。</p> <p>(1)医療状況の把握</p> <p>①病態や発生機序、治療やその合併症、引き起こされるであろう障害の把握</p> <p>(2)日々の行動場面や状況での「気づき」から注意が向いている情報を集める。</p> <p>①基本情報を把握する。 現病歴・既往歴／バイタルサイン／検査内容・検査結果／医師の指示・治療内容（薬や手術の内容など）／看護計画／その日に行われる予定の処置・治療について</p> <p>(3) 機能的健康パターン（情報収集ガイドを活用）に基づいた情報収集</p> <p>①スケジュールや食事・排泄・活動・清潔・整容・レク・睡眠等の状況把握</p> <p>②治療処置等の時間帯・日常生活援助の時間帯</p>

<p>生活援助技術の獲得</p>	<p>2. 対象の健康を判断できる。</p> <p>1. 看護師の援助方法を既習の知識と照らして考察する。</p> <p>2. 対象の本日の状態・生活リズムを考慮した生活援助を実施する。</p>	<p>(4)入院による生活の変化について</p> <p>①自宅と入院による生活の変化に対する気持ち</p> <p>②症状や検査治療環境に対する気持ち</p> <p>1) 対象の状態を整理、説明する。</p> <p>(1)アセスメントの視点ごとに情報を整理する。</p> <p>(2)情報（事実）の説明をする。</p> <p>(3)直面している状況は正常なのか、正常な状態から逸脱していることの説明</p> <p>(4)直面している状況（逸脱）は、なぜ起こったのか原因、誘因を追究する。</p> <p>(5)この逸脱した状態の身体及び日常生活への影響・なりゆきを説明する。</p> <p>(6)看護の必要性（方向性）を説明する。</p> <p>1) 体験した場面（事象や状況）に対しての「気づき」をきっかけに、対象理解や提供されている看護の意味付けをする。</p> <p>(1)「おや」「どうして」と興味関心を持つ</p> <p>(2)なぜかを手掛かりに、情報を集める。</p> <p>(3)その脈絡でその意味や理由を考える。</p> <p>(4)提供されている看護の理由を知る。</p> <p>(5)自分の理由付けについて考察する。（クリティカルシンキング）</p> <p>1) 日々の援助を実践する</p> <p>(1)実施目的を明確にする</p> <p>(2)実施目的を達成するための方法（時間・方法・観察項目・留意点）を明確にして実施できる。</p> <p>(3)安全・安楽・自立を保障して実践する。</p> <p>①原理原則の実施</p> <p>②対象の反応を確認しながらの実施</p> <p>③ニーズの充足に向けての実施</p> <p>(4)実施の結果、考察から日々修正・改善した実施を展開する。</p> <p>2) 2-1) (6) の看護の方向性（必要性）や対象の反応やニーズから追加ケアを計画し実施する。</p> <p>(1) 事前に臨床側・対象に許諾をとる。</p> <p>(2) 対象の本日の状態・生活リズムを考慮した生活援助を実施する。</p> <p>※実施に際しては、1) に準じる。</p>
------------------	---	--

<p>チーム医療 (連携)</p>	<p>1. 看護チームの一員として活動する。</p>	<p>1) 学生同士(チーム)で連携する。 ①チーム内で決められた約束を守り、役割を自発的に果たす。 ②チームでの活動に支援的な行動を示す。</p> <p>2) 指導者、臨床スタッフと共同する。 ①指導者、臨床スタッフと関わることができる。 ②情報の共有をすることができる。</p>
<p>態度</p>	<p>1. 看護師として必要な態度を養うことができる。</p> <p>2. 学習者としての態度を養うことができる。</p>	<p>1) 看護師としての必要なマナーを実践する。 (1)その場の状況にふさわしい行動をとる ①対象を尊重し不快にさせない ②ニーズを知ろうとする ③インフォームドコンセントの実践</p> <p>2) 適切な情報管理を実践する。 (1)記録物の管理・記録の匿名性の遵守 (2)守秘義務を守る</p> <p>3) スタンダードプリコーションを確実に実践する。 (1)手指衛生の正確な実施 (2)個人防護具の活用 (3)感染廃棄物の取り扱い</p> <p>1) 予見行動をとる。 (1)実習内容・実習方法を理解して準備する。 (2)リフレクションを活かして準備する。</p> <p>2) 遂行/意志コントロールの行動をとる。 (1)機会を逃さない。体調管理に努め適切な対処行動をとる。 (2)実習目標に対して日々意図的な姿勢で臨む。 ①より良くという姿勢 ②指摘されたことや課題に対して改善して臨む。 (3)実習日程に合わせて、記録を整理する。 (4)指導・助言・カンファレンスを活用して学習を深める。</p> <p>3) リフレクションをする。 (1)経験や行動を客観的に振り返り、自分に対しての課題を明確にする。 (2)グループワークやカンファレンスで学びを共有する。</p>
<p>看護観</p>	<p>1. 実習での体験から看護に対する志向を深めること</p>	<p>1) レポートを作成する。 テーマ：臨床看護師と自己のかかわり(具体的な場面から)を通し、「看護」について気付いたこと。</p>

	ができる。	<p>(1)サブテーマをつける</p> <p>(2)影響を受けた出来事や人物との関わりを丁寧に振り返り、その時の状況、あなたの感情、そこから得られた気づき（看護に大事なこと）を言語化する。</p> <p>(3)なぜその姿にあこがれるのか、どのような要素に魅力を感じるのかを明らかにする。</p> <p>(4)自己の課題（経験の振り返り）や成長に向けてどう努力するのかを具体的に表現する。</p> <p>2) 他者と看護観を共有する。</p>
--	-------	--

科目	単位数	時間数
地域実習	2 単位	90 時間
目的：地域における病院とは異なる「生活の場」における健康支援の実際を理解する。		
目標 1. マナーを守り、地域で生活する人々とコミュニケーションを成立させることができる。 2. 地域や個々の生活者に行われている健康課題に対する対応の意味を確認することができる。 3. 保健・医療・福祉の連携及び看護の役割を理解し、地域で暮らし続けるための看護（支援）を見学及び一部実践できる。 4. 実習を通して看護学生としての態度を養う。		

学習項目	学習目標	学習内容
対象理解 (アセスメント力)	1. 対象の生活を理解するために必要な情報を収集する。	<p>1) 観察を適切に実施する。</p> <p>(1) 関心をもって関わる。</p> <p>①対象者に常に関心を寄せ、「小さな気づき」に焦点を当てる。</p> <p>②コミュニケーション技術の活用 接近行動の実践／傾聴の技術／情報収集の技術</p> <p>③対象の訴えやニーズを引き出すような関わり</p> <p>(2) 適切な方法で関わる。</p> <p>①マナーを守り対象と関わる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なマナー（身だしなみ・挨拶・言葉遣い・態度・表情）に留意した関り ・対象の価値観を尊重した関り ・プライバシーへの配慮・守秘義務の遵守した関わり <p>②地域で生活する人々とコミュニケーションを成立させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象の発達段階・健康レベルに合わせたコミュニケーション技術の活用 ・「小さな気づき」から対象の不安や心配ごとに焦点を当てた関わり <p>③場や状況にあわせた関り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場や状況をふまえて目的を理解し参加する。 ・意図を明確にし参加する。 <p>2) 対象の健康問題や健康課題について情報を収集する。</p> <p>(1) 日々の行動場面や状況での「気づき」から注意が向いている対象の情報を収集する。</p> <p>①「地域で健やかに育つことを支える」小中学校 成長・発達/活動・遊び・学び/生活リズム/生活習慣/健康状態 価値観（大切なこと・幸せ感）</p> <p>②「健やかに生まれ育ち健康に暮らすことを支える」市民健康センター・保健センター 成長・発達/活動・遊び/健康状態（食生活・身体活動・休養・睡眠・歯口腔の健康）/労働/生活習慣/生活習慣病の有無・管理状況</p>

<p>看護実践</p>	<p>2. 生活者としての対象を理解する。</p> <p>1. 行われている看護や支援の意味を理解し見学及び一部実践できる</p>	<p>③「疾患の回復を支える、疾患・障害を抱え暮らしていくこと支える」クリニック 疾患の症状・治療/本人の認識/生活習慣/生活に関する価値観・信念 成長・発達/活動・遊び/健康状態（食生活・身体活動・休養・睡眠・歯 口腔の健康）</p> <p>(2) 対象を多角的に観察し情報を収集する。 ①環境をみるマクロの視点（広角メガネ） ②変遷と未来を見る時間軸の視座（時間のメガネ） ③個をみるミクロの視点（焦点メガネ）</p> <p>1) 収集した情報をもとに生活と健康の関連について考察する。 (1) 対象の生活の特徴 (2) その生活は健康にどのような影響を及ぼしているか。 (3) 家族や周囲の人は対象の健康にどのように関わっているか。 (4) 生活環境は健康行動に影響しているか。 (5) 対象が健康を守るためにすでにできていることは何か（強み）。 (6) 今後健康を維持・改善するために必要な支援は何か。 または行われている支援の必要性について考察する。</p>
<p>チーム医療 (連携)</p>	<p>1. 医療のチームの一員として活動する。</p>	<p>1) 各施設における看護（支援）実践の目的・方法を理解し参加する。 (1) 各施設の看護実践の目的・内容を理解する。 ①市民健康センター・保健センター 健康診査/保健指導/予防接種/家庭訪問/健康教育/地域の健康課題の 把握と対策/発達支援 ②クリニックにおける看護実践 診療の補助/問診/トリアージ/生活指導/継続受診の支援/ 他機関との連携 ③学校における看護実践 健康観察/保健室対応/健康教育/保健管理/心理的支援 (2) 保健師・看護師・養護教諭の対象との関りを観察し行われている看護（支援）の方法と必要性を理解する。 セルフケアを支援する個別指導/集団指導 (3) 地域で暮らす人々を支える看護（支援）の必要性をふまえ以下の視点に留意し参加する。 ①発達段階・健康レベルをふまえた安全安楽の視点 ②アドボゲイト/エンパワーメント/セルフエフィカシー/パートナーシップの視点</p> <p>1) 学生同士（チーム）で連携する。 (1) チーム内で決められた約束を守り、役割を自発的に果たす。 (2) チームでの活動に支援的な行動を示す。</p>

<p>態度</p>	<p>1. 看護者として必要な態度を養うことができる。</p> <p>2. 学習者としての態度を養う。</p>	<p>2) 各専門職の役割と責任を理解し共同する。</p> <p>(1) 各専門職の役割と責任・連携の方法の理解</p> <p>(2) 適宜、報告・連絡・相談の実施</p> <p>1) 対象の生活の場に入り看護を行うために留意すること。</p> <p>(1) インフォームドコンセント</p> <p>(2) 個人の意思決定を尊重する。</p> <p>(3) プライバーへの配慮</p> <p>(4) 適切な情報管理を実践する。</p> <p>①記録物の管理・記録の匿名性の遵守</p> <p>②守秘義務を守る。</p> <p>1) 予見行動をとる。</p> <p>(1)実習内容・実習方法を理解して準備する。</p> <p>(2)リフレクションを活かして準備する。</p> <p>2) 遂行／意志コントロールの行動をとる。</p> <p>(1)機会を逃さないため体調管理に努め適切な対処行動をとる。</p> <p>(2)実習目標に対して日々意図的な姿勢で臨む。</p> <p>①より良くという姿勢</p> <p>②指摘されたことや課題に対して改善して臨む。</p> <p>(3)実習日程に合わせて、記録を整理する。</p> <p>(4)指導・助言・カンファレンスを活用して学習を深める。</p> <p>3) リフレクションをする。</p> <p>(1)経験や行動を客観的に振り返り、自分に対しての課題を明確にする。</p>
<p>看護観</p>	<p>1. 地域実習での体験から看護に対する思考を深めることができる。</p>	<p>1) レポートを作成する。</p> <p>テーマ：「地域で暮らし続けることを支える」地域看護の重要性</p> <p>(1) サブテーマをつける。</p> <p>(2) 他者と看護観を共有する。</p>

科目	単位数	時間数
在宅看護論実習	2単位	90時間
目的：保健・医療・福祉制度を理解し、在宅で生活しながら支援を必要とする人々とその家族に対する基本的知識・技術・態度を修得する。		
目標：1. 地域で暮らす療養する人々を理解する。 2. 支援の実際を通して、地域包括支援センターの役割を理解する。 3. 訪問看護の役割と在宅での援助方法を学ぶ。 4. 看護チームの一員としての態度や学習者としての責任を考え行動することができる。		

学習項目	学習目標	学習内容
対象理解 (アセスメント力)	1. 療養者および家族の情報が収集できる。	<p>1) 観察を適切に実施する。</p> <p>(1)関心をもって療養者および家族と関わる。</p> <p>①療養者および家族に常に関心を寄せ、「小さな気づき」に焦点を当てる</p> <p>②コミュニケーション技術の活用 接近行動の実践／傾聴の技術／情報収集の技術</p> <p>③療養者および家族の訴えやニーズ、意思決定を引き出すような関わり</p> <p>(2)適切な方法で関わる。</p> <p>①情報源を多く持つ。(療養者・家族・訪問看護師など)</p> <p>②目的をもって情報収集をする。</p> <p>③特定のアセスメントの枠組を選択しそれに沿って情報を収集する。(家族アセスメントガイド)</p> <p>④フィジカルイグザミネーションの手法の利用 バイタルサイン測定の実施</p> <p>2) 対象をより正確に理解するための情報を得る。</p> <p>(1)日々の行動場面や状況での「気づき」から注意が向いている情報を集める。 ケアプラン／医師の指示書／訪問看護計画／報告書／家族訪問看護時の様子／療養者の状態を共有する連絡ノート</p> <p>(2)療養者および家族をより正確に理解するために家族看護アセスメントガイドを用いて情報を得る。</p> <p>①健康問題の全体と生活への影響の把握 健康障害の種類／現在の療養者の日常生活力／医師の治療方針／家庭内の役割を遂行できる可能性(療養者・家族の思い)／経済的負担</p>

<p>生活援助技術の獲得</p>	<p>2. 療養者・家族が療養生活を継続できるか判断できる。</p> <p>1. 看護師の援助方法を既習の知識と照らし合わせ考察する。</p> <p>2. 訪問看護の実際を通して在宅での援助方法を学ぶ。</p>	<p>②家族の発達段階・対応能力</p> <p>≪構造的側面≫</p> <p>家族構成／職業／家族成員の健康状態／健康問題に関する関心・理解力／経済的状态／生活習慣(生活リズム・食生活・余暇や趣味)／ケア習得する力(理解力・判断力・実行力)</p> <p>住宅環境／地域環境</p> <p>≪機能的側面≫</p> <p>家族内の情緒的關係(愛着・反発・関心・無関心)</p> <p>コミュニケーション(会話の量)</p> <p>役割分担(家族内のルール・柔軟性・キーパーソン)</p> <p>③家族の対応状況</p> <p>≪現在の家族の対応状況≫</p> <p>療養者・家族成員のセルフケアの状況／社会資源の活用状況サービスの種類・内容</p> <p>④家族の適応状況</p> <p>家族成員の心身の健康状態／家族の日常生活上・關係の変化</p> <p>1) 療養者および家族の状態を整理し、考察する。</p> <p>(1)家族アセスメントガイドの視点をもとに情報を整理する。</p> <p>(2)家族アセスメントガイドの視点で情報の説明をする。</p> <p>(3)家族が対応できているのか、支援は適切なのか、訪問看護の対応状況により療養者・家族の状況が適応状況にあるのかを明らかにする。</p> <p>(4)在宅療養生活は継続可能か危機的状況に陥っていないか判断する。</p> <p>(5)適応状況から、影響・成り行きを考え看護の方向性を導き出す。</p> <p>1) 体験した場面(事象や状況)に対しての「気づき」をきっかけに、対象理解や提供されている看護の意味づけをする。</p> <p>(1)なぜかを手がかりに、情報を集める。</p> <p>(2)在宅看護の特徴からその意味や理由を考える。</p> <p>1) 日々、指導の下、援助に参加する。(体験・見学)</p> <p>(1)健康問題の状態を把握し、看護の目的を明確にする。</p> <p>(2)実施目的を達成するための方法等について考察する。</p> <p>(3)バイタルサイン測定を実施する。</p> <p>①療養者の健康状態や療養環境を考慮し実施する。</p>
------------------	---	--

<p>チーム医療 (連携)</p>	<p>1. 看護チームの一員として活動する。</p>	<p>②療養者の反応を確認しながら実施する。 ③健康状態について得られた情報をもとに考察する。 ④自己の技術についてリフレクションする。</p> <p>1) 地域包括支援センターで行われている支援に参加する。 (1)業務内容と目的を理解する。 ①総合相談支援業務 ②権利擁護業務 ③包括的・継続的ケアマネジメント④介護予防ケアマネジメント (2)支援の対象である地域住民（個人・家族と集団）の生活者の特徴を把握する。 (3)地域で健康に生活をしていくための支援の必要性を理解する。</p> <p>2) 実習先の担当者と連携する。 (1)施設内で決められた約束を守り、役割を自発的に果たす。 (2)チームでの活動に支援的な行動を示す。</p> <p>3) 指導者、スタッフと主体的に関わる。 (1)指導者、スタッフに自ら関わるができる。 (2)情報の確認や共有をすることができる。</p>
<p>態度</p>	<p>1. 看護者として必要な態度を養うことができる。</p> <p>2. 学習者としての態度を養うことができる。</p>	<p>1) 看護者として必要な訪問マナーを実践する。 (1)その場の状況にふさわしい態度に留意した行動をとる。 ①療養者・家族を尊重し不快にさせない挨拶、身だしなみ、態度 ②ニーズを知ろうとする姿勢 ③インフォームドコンセントの実践 ④感染対策の徹底 ⑤許可なく生活の場に立ち入らない。 ⑥対象の価値観や生活観を尊重した関り</p> <p>2) 適切な情報管理を実践する。 (1)記録物の管理・記録の匿名性の遵守 (2)守秘義務を守る。</p> <p>1) 予見行動をとる。 (1)実習内容・実習方法を理解して準備する。 (2)リフレクションを活かして準備する。</p>

<p>看護観</p>	<p>1. 実習での体験から看護に対する思考を深めることができる。</p>	<p>2) 遂行／意志コントロールの行動をとる。</p> <p>(1)機会を逃さないため体調管理に努め適切な対処行動をとる。</p> <p>(2)実習目標に対して日々意図的な姿勢で臨む。</p> <p>①より良くという姿勢</p> <p>②指摘されたことや課題に対して改善して臨む。</p> <p>(3)実習日程に合わせて、記録を整理する。</p> <p>(4)指導・助言・カンファレンスを活用して学習を深める。</p> <p>3) リフレクションをする。</p> <p>(1)経験や行動を客観的に振り返り、自分に対しての課題を明確にする。</p> <p>(2)グループワークやカンファレンスで学びを共有する。</p> <p>1) レポートを作成する。</p> <p>テーマ：訪問看護師と自己のかかわり（具体的な場面から）を通し、「看護」について気付いたこと。</p> <p>(1)サブテーマをつける</p> <p>(2)影響を受けた出来事や人物との関わりを丁寧に振り返り、その時の状況、あなたの感情、そこから得られた気づき（看護に大事なこと）を言語化する。</p> <p>(3)なぜその姿にあこがれるのか、どのような要素に魅力を感じるのかを明らかにする。</p> <p>(4)自己の課題（経験の振り返り）や成長に向けてどう努力するのかを具体的に表現する。</p> <p>2) 他者と看護観を共有する。</p>
------------	---------------------------------------	---

科目名	単位数	時間数
成人・老年看護学実習 I	2単位	90時間
<p>目的: 1. 成人期または老年期にある対象を理解し、看護実践の場における知識・技術・態度を養う。 2. 看護過程を用いて成人期または老年期にある対象を理解し、問題解決に必要な援助を実践する。</p>		
<p>目標: 1. コミュニケーション技術を用いて、成人・老年期にある対象や医療チームメンバーと円滑な関係を築くことができる 2. 病院で療養している対象の生活を捉え、必要な看護を導き実践できる。 3. 日々の看護実践をもとに看護過程を活用し、その人の療養生活と看護について明確にできる。 4. 実習を通し看護学生としての態度を養う。</p>		

実習項目	学習目標	実習内容
対象理解 アセスメント	1. 対象の情報が収集できる。	<p>1) 観察を適切に実施する。</p> <p>(1) 関心を持って関わり、発達段階や対象の特徴に応じたコミュニケーション技法を用いて情報をとる。</p> <p>① 対象と関係構築するためのコミュニケーションをとる。 ・接近行動の実践 ・傾聴の技術 ・情報収集の技術</p> <p>② 対象者に常に関心を寄せ、「小さな気づき」に焦点を当てる。</p> <p>③ 成人期の意思決定支援・役割葛藤・慢性疾患の自己管理に配慮したコミュニケーション技法を用いて関わる。 動機づけ面接／価値観の明確化／オープンクエスチョン／行動変容ステージに合わせた声掛け／役割葛藤への共感</p> <p>④ 老年期の加齢変化・認知機能・感覚器の低下に配慮したコミュニケーション技法を用いて関わる。 言葉の長さ・速さ／視覚・聴覚補助の活用／確認質問／ライフレビューを促す傾聴／認知機能に合わせた表現</p> <p>⑤ 対象の訴えやニーズを引き出すような関り</p> <p>(2) 適切な方法で関わる。</p> <p>① 情報源を多く持つ。(対象、医療従事者、家族、記録物等)</p> <p>② 成人期・老年期の対象を理解するために目的を持って情報収集をする。</p> <p>③ 特定のアセスメントの枠組みを選択しそれに沿って情報収集する。</p> <p>④ フィジカルイグザミネーションの手法の利用</p> <p>2) 対象をより正確に理解するための情報を得る。</p> <p>(1) 医療状況の把握</p> <p>① 病態や発生機序、治療やその合併症、予測される障害の把握</p> <p>(2) 成人・老年期の発達段階が与える影響</p> <p>① 成人期の発達段階が与える影響 生活習慣／役割／自己管理状況／治療に対する価値観／疾患の増悪／仕事・育児・介護によるストレス／役割葛藤／疾患による自己効力感の低下／収入の変化／入院前の生活習慣／予備力</p> <p>② 老年期の発達段階が与える影響 加齢変化／認知機能／ADL／残存機能／回復遅延／併存する疾患リハビリ／入院前の生活習慣／ソーシャルサポートの活用状況／喪失体験／介護者の存在／社会的孤立のリスク</p> <p>(3) 日々の行動場面や状況での「気づき」から注意が向いている情報を集める。</p> <p>① 基本情報を把握する。 現病歴・既往歴／バイタルサイン／検査内容・検査結果／医師の指示・治療内容(薬や手術の内容など)／看護計画／その日に行われる予定の処置・治療について</p> <p>(4) 機能的健康パターン(情報収集ガイドを活用)に基づいた情報収集</p> <p>① スケジュールや健康に対する価値観、食事・排泄・活動・清潔・整容・レク・睡眠等の状況把握</p>

生活援助技術の獲得	<p>2. アセスメントができる。</p> <p>3. 問題の明確化ができる。</p> <p>4. 計画を立案できる。</p> <p>1. 看護師の援助方法を既習の知識と照らして考察する。</p> <p>2. 対象の本日の状態・生活リズムを考慮した看護を実施する。</p>	<p>② 治療処置等の時間帯・日常生活援助の時間帯</p> <p>(5) 入院による生活の変化について</p> <p>① 自宅と入院による生活の変化に対する気持ち</p> <p>② 症状や検査・治療環境に対する気持ち</p> <p>③ 退院後の生活の場</p> <p>1) 対象の状態を分析する。</p> <p>(1) 得られた情報を活用し、病態関連図から情報関連図にする。</p> <p>(2) 機能的健康パターンに基づいたアセスメントの視点ごとに、関連した情報をまとめて整理をする。</p> <p>(3) 情報(事実)の説明をする。</p> <p>(4) 直面している状況(逸脱)は、なぜ起こったのか原因、誘因を追求する。</p> <p>(5) この逸脱した状態の身体及び日常生活への影響・なりゆきを説明する。</p> <p>(6) 各クラスターから明らかになった影響・成り行きがクラスターを超えて、互いに影響していることを関連図に示す。</p> <p>1) 問題の明確化を図る。</p> <p>(1) 多くの事柄に影響を与えていたり、様々な原因により出現している、もしくは出現リスクのある症状や事象を関連図から見出し、看護問題を明確にする。</p> <p>(2) 対象の困難さや生活への影響の大きさ、看護介入の必要性、介入の可否、安全性を踏まえて、介入する看護問題を決定する。</p> <p>1) 個別性のある看護計画を立案する。</p> <p>(1) 看護問題を適切に表現する。</p> <p>(2) 発達段階や対象のニーズを考慮した目標を設定する。</p> <p>(3) 関連図から明らかになった問題の原因・誘因を除去するために、実習環境に応じた方法で計画を立案する。</p> <p>1) 体験した場面(事象や状況)に対しての「気づき」をきっかけに、対象理解や提供されている看護の意味付けをする。</p> <p>(1) 「おや」「どうして」という興味関心を持つ。</p> <p>(2) なぜかを手掛かりに、情報を集める。</p> <p>(3) その脈絡でその意味や理由を考える。</p> <p>(4) 提供されている看護の理由を知る。</p> <p>(5) 自分の理由付けについて考察する。(クリティカルシンキング)</p> <p>1) 日々の看護を実践する。</p> <p>(1) 実施目的を明確にする。</p> <p>(2) 実施目的を達成するための方法(時間・方法・観察項目・留意点)を明確にして実施できる。</p> <p>(3) 成人期・老年期の発達段階を考慮し、安全・安楽・自立を保証して実践する。</p> <p>① 成人期の特徴を踏まえた援助を実践する。 回復の促進／社会復帰／自立促進／心理的負担への配慮／自己効力感を高める声掛け／治療と生活の両立／セルフケア能力促進／セルフマネジメント／予備力の活用</p> <p>② 老年期の特徴を踏まえた援助を実践する。 転倒予防／誤嚥予防／セルフケアの充足／認知機能に応じた説明・確認／安心感の提供／ADL の維持・向上／安全な環境確保／残存機能の活用</p> <p>(4) 実施の結果、考察から日々修正・改善した実施を展開する。</p> <p>2) 看護計画や対象の反応やニーズからPDCAサイクルを活用し、追加ケアを計画し実施する。</p> <p>(1) 事前に臨床側・対象に許諾をとる。</p> <p>(2) 対象の本日の状態・生活リズムを考慮した看護を実施する。</p>
-----------	--	--

<p>チーム医療</p>	<p>1. 医療チームの一員として参加できる。</p>	<p>※実施に際しては、1)に準じる。 (3) 目標の達成度とその原因を分析し、看護計画の評価をする。</p> <p>1) 学生同士(チーム)で連携する。 (1) チームで決められた約束を守り、役割を自発的に果たす。 (2) チームでの活動に支援的な行動を示す。 2) 指導者・臨床スタッフ・教員と協働し、関係構築を図る。 (1) 自らの考えを伝える。 (2) 情報の共有と確認をする。 (3) わからないことを相談し、解決を図る。 (4) 相手の立場や状況に配慮して行動する。 3) 他職種の役割を理解する。</p>
<p>態度</p>	<p>1. 看護師として必要な態度を養うことができる。</p> <p>2. 学習者としての態度を養うことができる。</p>	<p>1) 看護師としての必要なマナーを実践する。 (1) その場の状況にふさわしい行動をとる。 ① 対象を尊重し不快にさせない。 ② ニーズを知ろうとする。 ③ インフォームドコンセントを実践する。 2) 適切な情報管理を実践する。 (1) 記録物の管理・記録の匿名性を順守する。 (2) 守秘義務を守る。 3) スタンダードプリコーションを確実に実践する。 (1) 手指衛生の正確な実施 (2) 個人防護具の活用 (3) 感染性廃棄物の取り扱い</p> <p>1) 予見行動をとる。 (1) 実習内容・実習方法を理解して準備する。 (2) リフレクションを活かして準備する。 2) 遂行／意志コントロールの行動をとる。 (1) 機会を逃がさない。体調管理に努め適切な対処行動をとる。 (2) 実習目標に対して日々意欲的な姿勢で臨む。 ① より良くという姿勢 ② 指摘されたことや課題に対して改善して臨む。 (3) 実習日程に合わせて、記録を整理する。 (4) 指導・助言・カンファレンスを活用して学習を深める。 3) リフレクションをする。 (1) 経験や行動を客観的に振り返り、自分に対しての課題を明確にする。 (2) グループワークやカンファレンスで学びを共有する。</p>
<p>看護観</p>	<p>1. 実習での体験から看護に対する思考を深めることができる。</p>	<p>1) レポートを作成する。 テーマ:臨床看護師と自己の関わり(具体的な場面から)を通し、「看護」について気付いたこと。 (1) サブテーマを付ける。 (2) 影響を受けた出来事や人物との関わりを丁寧に振り返り、その時の状況、あなたの感情、そこから得られた気づき(看護に大事なこと)を言語化する。 (3) 看護師へ憧れを抱いた理由や魅力を明確にする、もしくはジレンマを感じた場面では問題点と望ましい対応を考察する。 (4) 自己の課題(経験の振り返り)や成長に向けてどう努力するのかを具体的に表現する。 2) 他者と看護観を共有する。</p>

科目名	単位数	時間数
成人・老年看護学実習Ⅱ(急性期・回復期)	2単位	90時間
目的: 成人または老年期にある対象を理解し、周手術期・回復期の健康レベルに応じた看護を実践するための、基礎的知識・技術・態度を習得する。		
目標: 1. 成人期・老年期にある周手術期の対象を理解する。 2. 看護実践場面を通して、効果的なコミュニケーションを実践する。 3. 周手術期にある対象の健康レベルに応じた看護を実践する。 4. 実習を通して看護学生としての態度を養う。		

学習項目	学習目標	学習内容
対象理解 アセスメント	1. 対象の情報が収集できる。	<p>1) 観察を適切に実施する。</p> <p>(1) 関心を持って関わり、発達段階や対象の特徴に応じたコミュニケーション技法を用いて情報をとる。</p> <p>① 対象と関係構築するためのコミュニケーションをとる。 ・接近行動の実践 ・傾聴の技術 ・情報収集の技術</p> <p>② 対象者に常に関心を寄せ、「小さな気づき」に焦点を当てる。</p> <p>③ 成人期の意思決定支援・役割葛藤・慢性疾患の自己管理に配慮したコミュニケーション技法を用いて関わる。 動機づけ面接／価値観の明確化／オープンクエスション／行動変容ステージに合わせた声掛け／役割葛藤への共感</p> <p>④ 老年期の加齢変化・認知機能・感覚器の低下に配慮したコミュニケーション技法を用いて関わる。 言葉の長さ・速さ／視覚・聴覚補助の活用／確認質問／ライフレビューを促す傾聴／認知機能に合わせた表現</p> <p>⑤ 対象の訴えやニーズを引き出すような関り</p> <p>(2) 適切な方法で関わる。</p> <p>① 情報源を多く持つ。(対象、医療従事者、家族、記録物等)</p> <p>② 成人期・老年期を対象を理解するために目的を持って情報収集をする。</p> <p>③ 特定のアセスメントの枠組みを選択しそれに沿って情報収集する。</p> <p>④ フィジカルイグザミネーションの手法の利用</p> <p>2) 対象をより正確に理解するための情報を得る。</p> <p>(1) 医療状況の把握</p> <p>② 病態や発生機序、治療やその合併症、予測される障害の把握</p> <p>(2) 成人・老年期の発達段階が与える影響</p> <p>① 成人期の発達段階が与える影響 生活習慣／役割／自己管理状況／治療に対する価値観／疾患の増悪／仕事・育児・介護によるストレス／役割葛藤／疾患による自己効力感の低下／収入の変化／入院前の生活習慣／予備力</p> <p>② 老年期の発達段階が与える影響 加齢変化／認知機能／ADL／残存機能／回復遅延／併存する疾患リハビリ／入院前の生活習慣／ソーシャルサポートの活用状況／喪失体験／介護者の存在／社会的孤立のリスク</p> <p>(3) 日々の行動場面や状況での「気づき」から注意が向いている情報を集める。</p> <p>① 基本情報を把握する。 現病歴・既往歴／バイタルサイン／検査内容・検査結果／医師の指示・治療内容(薬や手術の内容など)／看護計画／その日に行われる予定の処置・治療について</p> <p>(4) 機能的健康パターン(情報収集ガイドを活用)に基づいた情報収集</p> <p>① スケジュールや健康に対する価値観、食事・排泄・活動・清潔・整容・レク・睡眠、認知機能、疼痛等の状況把握、</p>

生活援助技術の獲得	2. アセスメントができる	<ul style="list-style-type: none"> ② 治療処置等の時間帯・日常生活援助の時間帯 (5) 入院による生活の変化について <ul style="list-style-type: none"> ① 自宅と入院による生活の変化に対する気持ち ② 症状や検査・治療環境に対する気持ち ③ 退院後の生活の場 (6) 周手術期の対象理解における意図的な情報収集 ムーアの分類／術後合併症／ストレス反応／ショック性危機(フィンク・シヨソツ・コーン等)／防衛機制／併存疾患の有無／予備力 <p>1) 対象の状態を分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 得られた情報を活用し、病態関連図から情報関連図にする。 (2) 機能的健康パターンに基づいたアセスメントの視点ごとに、関連した情報をまとめて整理をする。 (3) 情報(事実)の説明をする。 (4) 直面している状況(逸脱)は、なぜ起こったのか原因、誘因を追求する。 (5) この逸脱した状態の身体及び日常生活への影響・なりゆきを説明する。 (6) 各クラスターから明らかになった影響・成り行きがクラスターを超えて、互いに影響していることを関連図に示す。
	3. 問題の明確化ができる	<p>1) 問題の明確化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 多くの事柄に影響を与えていたり、様々な原因により出現している、もしくは出現リスクのある症状や事象を関連図から見出し、看護問題を明確にする。 (2) 対象の困難さや生活への影響の大きさ、看護介入の必要性、介入の可否、安全性を踏まえて、介入する看護問題を決定する。
	4. 計画を立案できる	<p>1) 個別性のある看護計画を立案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 看護問題を適切に表現する。 (2) 発達段階や対象のニーズを考慮した目標を設定する。 (3) 関連図から明らかになった問題の原因・誘因を除去するために、実習環境に応じた方法で計画を立案する。
	1. 看護師の援助方法を既習の知識と照らして考察する。	<p>1) 体験した場面(事象や状況)に対しての「気づき」をきっかけに、対象理解や提供されている看護の意味付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 「おや」「どうして」という興味関心を持つ。 (2) なぜかを手掛かりに、情報を集める。 (3) その脈絡でその意味や理由を考える。 (4) 提供されている看護の理由を知る。 (5) 自分の理由付けについて考察する。(クリティカルシンキング) <p>2) 手術室における看護の実際を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 手術前の看護 (2) 手術中の看護 (3) 手術室における看護の展開 (4) 手術室の環境管理
2. 対象の本日の状態・生活リズムを考慮した看護を実施する。	<p>2) 日々の看護を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実施目的を明確にする。 (2) 実施目的を達成するための方法(時間・方法・観察項目・留意点)を明確にして実施できる。 (3) 成人期・老年期の発達段階を考慮し、安全・安楽・自立を保証して実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 成人期の特徴を踏まえた援助を実践する。 回復の促進／社会復帰／自立促進／心理的負担への配慮／自己効力感を高める声掛け／治療と生活の両立／セルフケア能力促進／セルフマネジメント／予備力の活用 ② 老年期の特徴を踏まえた援助を実践する。 	

		<p>転倒予防／誤嚥予防／セルフケアの充足／認知機能に応じた説明・確認／安心感の提供／ADL の維持・向上／安全な環境確保／残存機能の活用</p> <p>(4) 実施の結果、考察から日々修正・改善した実施を展開する。</p> <p>3) 看護計画や対象の反応やニーズから PDCA サイクルを活用し、追加ケアを計画し実施する。</p> <p>(1) 事前に臨床側・対象に許諾をとる。</p> <p>(2) 対象の本日の状態・生活リズムを考慮した看護を実施する。 ※実施に際しては、1)に準じる。</p> <p>(3) 急性期・回復期に応じた援助を実践する。</p> <p>① バイタルサインの変化や急性期特有の症状の観察・アセスメント</p> <p>② 疼痛管理、安楽の調整</p> <p>③ 術後合併症予防</p> <p>④ 回復促進に向けた援助</p> <p>⑤ 心理的支援・意思決定支援</p> <p>⑥ 退院後の生活を見据えた患者指導</p> <p>(4) 目標の達成度とその原因を分析し、看護計画の評価をする。</p>
チーム医療	1. 医療チームの一員として協働できる。	<p>1) 学生同士(チーム)で連携する。</p> <p>(1) チームで決められた約束を守り、役割を自発的に果たす。</p> <p>(2) チームでの活動に支援的な行動を示す。</p> <p>(3) リーダーシップ・メンバーシップを意識した行動をとる。</p> <p>2) 指導者・臨床スタッフ・教員と協働し、関係構築を図る。</p> <p>(1) 自らの考えを伝える。</p> <p>(2) 情報の共有と確認をする。</p> <p>(3) わからないことを相談し、解決を図る。</p> <p>(4) 相手の立場や状況に配慮して行動する。</p> <p>3) 多職種と協働する。</p> <p>(1) 多職種職種と目的を共有する。</p> <p>(2) 目的達成に向けて協働する。</p>
態度	<p>1. 看護者として必要な態度を養うことができる。</p> <p>2. 学習者としての態度を養うことができる。</p>	<p>1) 看護者としての必要なマナーを実践する。</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動をとる。</p> <p>① 対象を尊重し不快にさせない。</p> <p>② ニーズを知ろうとする。</p> <p>③ インフォームドコンセントを実践する。</p> <p>2) 適切な情報管理を実践する。</p> <p>(1) 記録物の管理・記録の匿名性を順守する。</p> <p>(2) 守秘義務を守る。</p> <p>3) スタンダードプリコーションを確実に実践する。</p> <p>(1) 手指衛生の正確な実施</p> <p>(2) 個人防護具の活用</p> <p>(3) 感染性廃棄物の取り扱い</p> <p>1) 予見行動をとる。</p> <p>(1) 実習内容・実習方法を理解して準備する。</p> <p>(2) リフレクションを活かして準備する。</p> <p>2) 遂行／意志コントロールの行動をとる。</p> <p>(1) 機会を逃がさない。体調管理に努め適切な対処行動をとる。</p> <p>(2) 実習目標に対して日々意欲的な姿勢で臨む。</p> <p>③ より良くという姿勢</p> <p>④ 指摘されたことや課題に対して改善して臨む。</p> <p>(3) 実習日程に合わせて、記録を整理する。</p>

<p>看護観</p>	<p>1. 実習での体験から看護に対する思考を深めることができる。</p>	<p>(4) 指導・助言・カンファレンスを活用して学習を深める。</p> <p>3) リフレクションをする。</p> <p>(1) 経験や行動を客観的に振り返り、自分に対しての課題を明確にする。</p> <p>(2) グループワークやカンファレンスで学びを共有する。</p> <p>1) レポートを作成する。 テーマ:臨床看護師と自己の関わり(具体的な場面から)を通し、「看護」について気付いたこと。</p> <p>(1) サブテーマを付ける。</p> <p>(2) 影響を受けた出来事や人物との関わりを丁寧に振り返り、その時の状況、あなたの感情、そこから得られた気づき(看護に大事なこと)を言語化する。</p> <p>(3) 看護師へ憧れを抱いた理由や魅力を明確にする、もしくはジレンマを感じた場面では問題点と望ましい対応を考察する。</p> <p>(4) 自己の課題(経験の振り返り)や成長に向けてどう努力するのかを具体的に表現する。</p> <p>(5) 他者と看護観を共有する。</p>
------------	---------------------------------------	--

科目名	単位数	時間数
成人・老年看護学実習Ⅲ(慢性期・終末期)	2単位	90時間
目的: 成人期または老年期にある対象を理解し、慢性期・終末期の健康レベルに応じた看護を実践するための、基礎的知識・技術・態度を習得する。		
目標: 1. 成人期・老年期にある慢性期・終末期の対象を理解する。 2. 看護実践場面を通して、効果的なコミュニケーションを実践する。 3. 慢性期・終末期にある対象の健康レベルに応じた看護を実践する。 4. 実習を通して看護学生としての態度を養う。		

学習項目	学習目標	学習内容
対象理解 アセスメント	1. 対象の情報が収集できる。	<p>1) 観察を適切に実施する。</p> <p>(1) 関心を持って関わり、発達段階や対象の特徴に応じたコミュニケーション技法を用いて情報をとる。</p> <p>① 対象者に常に関心を寄せ、「小さな気づき」に焦点を当てる。</p> <p>② 成人期の意思決定支援・役割葛藤・慢性疾患の自己管理に配慮したコミュニケーション技法を用いて関わる。 動機づけ面接／価値観の明確化／オープンクエスチョン／行動変容ステージに合わせた声掛け／役割葛藤への共感</p> <p>③ 老年期の加齢変化・認知機能・感覚器の低下に配慮したコミュニケーション技法を用いて関わる。 言葉の長さ・速さ／視覚・聴覚補助の活用／確認質問／ライフレビューを促す傾聴／認知機能に合わせた表現</p> <p>④ 対象の訴えやニーズを引き出すような関り</p> <p>(2) 適切な方法で関わる。</p> <p>① 情報源を多く持つ。(対象、医療従事者、家族、記録物等)</p> <p>② 成人期・老年期の対象を理解するために目的を持って情報収集をする。</p> <p>③ 特定のアセスメントの枠組みを選択しそれに沿って情報収集する。</p> <p>④ フィジカルイグザミネーションの手法の利用</p> <p>1) 対象をより正確に理解するための情報を得る。</p> <p>(1) 医療状況の把握</p> <p>① 病態や発生機序、治療やその合併症、予測される障害の把握</p> <p>(2) 成人・老年期の発達段階が与える影響</p> <p>① 成人期の発達段階が与える影響 生活習慣／役割／自己管理状況／治療に対する価値観／疾患の増悪／仕事・育児・介護によるストレス／役割葛藤／疾患による自己効力感の低下／収入の変化／入院前の生活習慣／予備力</p> <p>② 老年期の発達段階が与える影響 加齢変化／認知機能／ADL／残存機能／回復遅延／併存する疾患リハビリ／入院前の生活習慣／ソーシャルサポートの活用状況／喪失体験／介護者の存在／社会的孤立のリスク</p> <p>(3) 日々の行動場面や状況での「気づき」から注意が向いている情報を集める。</p> <p>① 基本情報を把握する。 現病歴・既往歴／バイタルサイン／検査内容・検査結果／医師の指示・治療内容(薬や手術の内容など)／看護計画／その日に行われる予定の処置・治療について</p> <p>(4) 機能的健康パターン(情報収集ガイドを活用)に基づいた情報収集</p> <p>① スケジュールや健康に対する価値観、食事・排泄・活動・清潔・整容・レク・睡眠、認知機能、疼痛、自己概念、役割等の状況把握、</p> <p>② 治療処置等の時間帯・日常生活援助の時間帯</p> <p>(5) 入院による生活の変化について</p>

生活援助技術の獲得	2. アセスメントができる。	<ul style="list-style-type: none"> ① 自宅と入院による生活の変化に対する気持ち ② 症状や検査・治療環境に対する気持ち ③ 退院後の生活の場 (6) 慢性期・終末期の対象理解における意図的な情報収集 病みの軌跡／コンプライアンス・アドヒアランス／セルフマネジメント／トランスセオレティカルモデル／エンパワメント／消耗性危機(アギュララとメズイック、キューブラー・ロス)／全人的苦痛／アドバンス・ケア・プランニング／QOL／併存疾患の有無／予備力／残存機能
	3. 問題の明確化ができる	<ul style="list-style-type: none"> 1) 対象の状態を分析する。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 得られた情報を活用し、病態関連図から情報関連図にする。 (2) 機能的健康パターンに基づいたアセスメントの視点ごとに、関連した情報をまとめて整理をする。 (3) 情報(事実)の説明をする。 (4) 直面している状況(逸脱)は、なぜ起こったのか原因、誘因を追求する。 (5) この逸脱した状態の身体及び日常生活への影響・なりゆきを説明する。 (6) 各クラスターから明らかになった影響・成り行きがクラスターを超えて、互いに影響していることを関連図に示す。
	4. 計画を立案できる	<ul style="list-style-type: none"> 1) 問題の明確化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 多くの事柄に影響を与えていたり、様々な原因により出現している、もしくは出現リスクのある症状や事象を関連図から見出し、看護問題を明確にする。 (2) 対象の困難さや生活への影響の大きさ、看護介入の必要性、介入の可否、安全性を踏まえて、介入する看護問題を決定する。
	1. 看護師の援助方法を既習の知識と照らして考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 1) 体験した場面(事象や状況)に対しての「気づき」をきっかけに、対象理解や提供されている看護の意味付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 「おや」「どうして」という興味関心を持つ。 (2) なぜかを手掛かりに、情報を集める。 (3) その脈絡でその意味や理由を考える。 (4) 提供されている看護の理由を知る。 (5) 自分の理由付けについて考察する。(クリティカルシンキング)
2. 対象の本日の状態・生活リズムを考慮した看護を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 2) 日々の看護を実践する。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 実施目的を明確にする。 (2) 実施目的を達成するための方法(時間・方法・観察項目・留意点)を明確にして実施できる。 (3) 成人期・老年期の発達段階を考慮し、安全・安楽・自立を保証して実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 成人期の特徴を踏まえた援助を実践する。 回復の促進／社会復帰／自立促進／心理的負担への配慮／自己効力感を高める声掛け／治療と生活の両立／セルフケア能力促進／セルフマネジメント／予備力の活用 ② 老年期の特徴を踏まえた援助を実践する。 転倒予防／誤嚥予防／セルフケアの充足／認知機能に応じた説明・確認／安心感の提供／ADL の維持・向上／安全な環境確保／残存機能の活用 (4) 実施の結果、考察から日々修正・改善した実施を展開する。 3) 看護計画や対象の反応やニーズから PDCA サイクルを活用し、追加ケアを 	

		<p>計画し実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事前に臨床側・対象に許諾をとる。 (2) 対象の本日の状態・生活リズムを考慮した看護を実施する。 ※実施に際しては、1)に準じる。 (3) 慢性期に応じた援助を実践する。 <ol style="list-style-type: none"> ① セルフマネジメントに向けた支援 ② 生活・仕事との両立にむけた支援 ③ 役割の変化に対する支援 ④ ADL維持・向上に向けた支援 ⑤ 家族・ソーシャルサポートの活用 ⑥ 退院後の生活を見据えた患者指導 (4) 終末期に応じた援助を実践する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 全人的苦痛緩和 ② QOLを重視した生活援助技術 ③ 心理的支援・意思決定支援 ④ アドバンス・ケア・プランニング (5) 目標の達成度とその原因を分析し、看護計画の評価をする。
チーム医療	1. 医療チームの一員として協働できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学生同士(チーム)で連携する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) チームで決められた約束を守り、役割を自発的に果たす。 (2) チームでの活動に支援的な行動を示す。 (3) リーダーシップ・メンバーシップを意識した行動をとる。 2) 指導者・臨床スタッフ・教員と協働し、関係構築を図る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自らの考えを伝える。 (2) 情報の共有と確認をする。 (3) わからないことを相談し、解決を図る。 (4) 相手の立場や状況に配慮して行動する。 3) 多職種と協働する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多職種職種と目的を共有する。 (2) 目的達成に向けて協働する。
態度	<p>1. 看護者として必要な態度を養うことができる。</p> <p>2. 学習者としての態度を養うことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護者としての必要なマナーを実践する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) その場の状況にふさわしい行動をとる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 対象を尊重し不快にさせない。 ② ニーズを知ろうとする。 ③ インフォームドコンセントを実践する。 2) 適切な情報管理を実践する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 記録物の管理・記録の匿名性を順守する。 (2) 守秘義務を守る。 3) スタンダードプリコーションを確実に実践する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 手指衛生の正確な実施 (2) 個人防護具の活用 (3) 感染性廃棄物の取り扱い 2) 予見行動をとる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習内容・実習方法を理解して準備する。 (2) リフレクションを活かして準備する。 2) 遂行/意志コントロールの行動をとる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 機会を逃がさない。体調管理に努め適切な対処行動をとる。 (2) 実習目標に対して日々意欲的な姿勢で臨む。 <ol style="list-style-type: none"> ① より良くという姿勢 ② 指摘されたことや課題に対して改善して臨む。 (3) 実習日程に合わせて、記録を整理する。

<p>看護観</p>	<p>1. 実習での体験から看護に対する思考を深めることができる。</p>	<p>(4) 指導・助言・カンファレンスを活用して学習を深める。</p> <p>3) リフレクションをする。</p> <p>(1) 経験や行動を客観的に振り返り、自分に対しての課題を明確にする。</p> <p>(2) グループワークやカンファレンスで学びを共有する。</p> <p>1) レポートを作成する。 テーマ:臨床看護師と自己の関わり(具体的な場面から)を通し、「看護」について気付いたこと。</p> <p>(1) サブテーマを付ける。</p> <p>(2) 影響を受けた出来事や人物との関わりを丁寧に振り返り、その時の状況、あなたの感情、そこから得られた気づき(看護に大事なこと)を言語化する。</p> <p>(3) 看護師へ憧れを抱いた理由や魅力を明確にする、もしくはジレンマを感じた場面では問題点と望ましい対応を考察する。</p> <p>(4) 自己の課題(経験の振り返り)や成長に向けてどう努力するのかを具体的に表現する。</p> <p>(5) 他者と看護観を共有する。</p>
------------	---------------------------------------	--

科目名	単位数	時間数
成人・老年看護学実習Ⅳ(退院支援)	2単位	90時間
<p>目的: 1. 成人期または老年期にある人の療養生活を理解し、その人の個別性や支援システムおよび、健康障害をもちながら生活する人の看護を学ぶ。</p> <p>2. 退院支援システムにおける看護師の役割を学ぶ。</p>		
<p>目標: 1. 成人期・老年期にある疾患を抱えた対象や家族などを理解する。</p> <p>2. 看護実践場面を通して、効果的なコミュニケーションを実践する。</p> <p>3. 対象の健康レベルに応じた看護を実践する。</p> <p>4. 療養生活を支える社会保障制度の活用と看護の役割について理解する。</p> <p>5. 実習を通して看護学生としての態度を養う。</p>		

学習項目	学習目標	学習内容
対象理解 アセスメント	1. 対象の情報が収集できる。	<p>1) 観察を適切に実施する。</p> <p>(1) 関心を持って関わり、発達段階や対象の特徴に応じたコミュニケーション技法を用いて情報をとる。</p> <p>① 対象者に常に関心を寄せ、「小さな気づき」に焦点を当てる。</p> <p>② 成人期の意思決定支援・役割葛藤・慢性疾患の自己管理に配慮したコミュニケーション技法を用いて関わる。 動機づけ面接／価値観の明確化／オープンクエスチョン／行動変容ステージに合わせた声掛け／役割葛藤への共感</p> <p>③ 老年期の加齢変化・認知機能・感覚器の低下に配慮したコミュニケーション技法を用いて関わる。 言葉の長さ・速さ／視覚・聴覚補助の活用／確認質問／ライフレビューを促す傾聴／認知機能に合わせた表現</p> <p>④ 対象の訴えやニーズを引き出すような関り</p> <p>(2) 適切な方法で関わる。</p> <p>① 情報源を多く持つ。(対象、医療従事者、家族、記録物等)</p> <p>② 成人期・老年期の対象を理解するために目的を持って情報収集をする。</p> <p>③ 特定のアセスメントの枠組みを選択しそれに沿って情報収集する。</p> <p>④ フィジカルイグザミネーションの手法の利用</p> <p>2) 対象をより正確に理解するための情報を得る。</p> <p>(1) 医療状況の把握</p> <p>① 病態や発生機序、治療やその合併症、予測される障害の把握</p> <p>(2) 成人・老年期の発達段階が与える影響</p> <p>① 成人期の発達段階が与える影響 生活習慣／役割／自己管理状況／治療に対する価値観／疾患の増悪／仕事・育児・介護によるストレス／役割葛藤／疾患による自己効力感の低下／収入の変化／入院前の生活習慣／予備力</p> <p>② 老年期の発達段階が与える影響 加齢変化／認知機能／ADL／残存機能／回復遅延／併存する疾患リハビリ／入院前の生活習慣／ソーシャルサポートの活用状況／喪失体験／介護者の存在／社会的孤立のリスク</p> <p>(3) 日々の行動場面や状況での「気づき」から注意が向いている情報を集める。</p> <p>① 基本情報を把握する。 現病歴・既往歴／バイタルサイン／検査内容・検査結果／医師の指示・治療内容(薬や手術の内容など)／看護計画／その日に行われる予定の処置・治療について</p> <p>(4) 機能的健康パターン(情報収集ガイドを活用)に基づいた情報収集</p> <p>① スケジュールや健康に対する価値観、食事・排泄・活動・清潔・整容・レク・睡眠、認知機能、疼痛、自己概念、役割等の状況把握、</p> <p>② 治療処置等の時間帯・日常生活援助の時間帯</p>

生活援助技術の獲得	2. アセスメントができる。	<ul style="list-style-type: none"> (5) 入院による生活の変化について <ul style="list-style-type: none"> ① 自宅と入院による生活の変化に対する気持ち ② 症状や検査・治療環境に対する気持ち ③ 退院後の生活の場 (6) 退院支援が必要な対象理解における意図的な情報収集 多職種連携／地域連携／ソーシャルサポートの活用状況／多様な療養の場の特徴／退院後の生活環境／経済状況／周囲のサポート体制／セルフケア能力／退院時における対象の目標
	3. 問題の明確化ができる	<ul style="list-style-type: none"> 1) 対象の状態を分析する。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 得られた情報を活用し、病態関連図から情報関連図にする。 (2) 機能的健康パターンに基づいたアセスメントの視点ごとに、関連した情報をまとめて整理をする。 (3) 情報(事実)の説明をする。 (4) 直面している状況(逸脱)は、なぜ起こったのか原因、誘因を追求する。 (5) この逸脱した状態の身体及び日常生活への影響・なりゆきを説明する。 (6) 退院支援センター及び病棟リンクナースを見学した学びを活かし、対象に必要な退院支援について説明する。 (7) 各クラスターから明らかになった影響・成り行きがクラスターを超えて、互いに影響していることを関連図に示す。
	4. 計画を立案できる	<ul style="list-style-type: none"> 1) 問題の明確化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 多くの事柄に影響を与えていたり、様々な原因により出現している、もしくは出現リスクのある症状や事象を関連図から見出し、看護問題を明確にする。 (2) 対象の困難さや生活への影響の大きさ、看護介入の必要性、介入の可否、安全性を踏まえて、介入する看護問題を決定する。
	1. 看護師の援助方法を既習の知識と照らして考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 1) 体験した場面(事象や状況)に対しての「気づき」をきっかけに、対象理解や提供されている看護の意味付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 「おや」「どうして」という興味関心を持つ。 (2) なぜかを手掛かりに、情報を集める。 (3) その脈絡でその意味や理由を考える。 (4) 提供されている看護の理由を知る。 (5) 自分の理由付けについて考察する。(クリティカルシンキング)
2. 対象の本日の状態・生活リズムを考慮した看護を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 2) 日々の看護を実践する。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 実施目的を明確にする。 (2) 実施目的を達成するための方法(時間・方法・観察項目・留意点)を明確にして実施できる。 (3) 成人期・老年期の発達段階を考慮し、安全・安楽・自立を保証して実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 成人期の特徴を踏まえた援助を実践する。 回復の促進／社会復帰／自立促進／心理的負担への配慮／自己効力感を高める声掛け／治療と生活の両立／セルフケア能力促進／セルフマネジメント／予備力の活用 ② 老年期の特徴を踏まえた援助を実践する。 転倒予防／誤嚥予防／セルフケアの充足／認知機能に応じた説明・確／安心感の提供／ADL の維持・向上／安全な環境確保／残存機能の活用 (4) 実施の結果、考察から日々修正・改善した実施を展開する。 	

		<p>3) 看護計画や対象の反応やニーズから PDCA サイクルを活用し、追加ケアを計画し実施する。</p> <p>(1) 事前に臨床側・対象に許諾をとる。</p> <p>(2) 対象の本日の状態・生活リズムを考慮した看護を実施する。 ※実施に際しては、1)に準じる。</p> <p>(3) 退院支援に向けた援助を実践する。</p> <p>① セルフマネジメントに向けた支援</p> <p>② 家族・ソーシャルサポートの活用</p> <p>③ 心理的支援・意思決定支援</p> <p>④ 退院後の生活を見据えた患者指導</p> <p>(4) 目標の達成度とその原因を分析し、看護計画の評価をする。</p>
チーム医療	<p>1. 医療チームの一員として協働できる。</p> <p>2. 退院支援の実際を知る。</p>	<p>1) 学生同士(チーム)で連携する。</p> <p>(1) チームで決められた約束を守り、役割を自発的に果たす。</p> <p>(2) チームでの活動に支援的な行動を示す。</p> <p>(3) リーダーシップ・メンバーシップを意識した行動をとる。</p> <p>2) 指導者・臨床スタッフ・教員と協働し、関係構築を図る。</p> <p>(1) 自らの考えを伝える。</p> <p>(2) 情報の共有と確認をする。</p> <p>(3) わからないことを相談し、解決を図る。</p> <p>(4) 相手の立場や状況に配慮して行動する。</p> <p>3) 多職種と協働する。</p> <p>(1) 多職種職種と目的を共有する。</p> <p>(2) 目的達成に向けて協働する。</p> <p>1) 退院支援に関わる各専門職と看護師の役割を理解する。</p> <p>(1) 患者支援センターにおいて、退院支援の全体像・社会資源の調整・多職種連携の実際を理解する。</p> <p>(2) 病棟リンクナースにおいて、日常の看護実践から対象の生活課題を把握し、退院支援に必要な多職種連携及び社会資源の活用へつなぐ役割を理解する。</p>
態度	<p>1. 看護師として必要な態度を養うことができる。</p> <p>2. 学習者としての態度を養うことができる。</p>	<p>1) 看護師としての必要なマナーを実践する。</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動をとる。</p> <p>① 対象を尊重し不快にさせない。</p> <p>② ニーズを知ろうとする。</p> <p>③ インフォームドコンセントを実践する。</p> <p>2) 適切な情報管理を実践する。</p> <p>(1) 記録物の管理・記録の匿名性を順守する。</p> <p>(2) 守秘義務を守る。</p> <p>3) スタンダードプリコーションを確実に実践する。</p> <p>(1) 手指衛生の正確な実施</p> <p>(2) 個人防護具の活用</p> <p>(3) 感染性廃棄物の取り扱い</p> <p>1) 予見行動をとる。</p> <p>(1) 実習内容・実習方法を理解して準備する。</p> <p>(2) リフレクションを活かして準備する。</p> <p>2) 遂行/意志コントロールの行動をとる。</p> <p>(1) 機会を逃がさない。体調管理に努め適切な対処行動をとる。</p> <p>(2) 実習目標に対して日々意欲的な姿勢で臨む。</p> <p>① より良くという姿勢</p> <p>② 指摘されたことや課題に対して改善して臨む。</p> <p>(3) 実習日程に合わせて、記録を整理する。</p>

<p>看護観</p>	<p>1. 実習での体験から看護に対する思考を深めることができる。</p>	<p>(4) 指導・助言・カンファレンスを活用して学習を深める。</p> <p>3) リフレクションをする。</p> <p>(1) 経験や行動を客観的に振り返り、自分に対しての課題を明確にする。</p> <p>(2) グループワークやカンファレンスで学びを共有する。</p> <p>1) レポートを作成する。 テーマ:臨床看護師と自己の関わり(具体的な場面から)を通し、「看護」について気付いたこと。</p> <p>(1) サブテーマを付ける。</p> <p>(2) 影響を受けた出来事や人物との関わりを丁寧に振り返り、その時の状況、あなたの感情、そこから得られた気づき(看護に大事なこと)を言語化する。</p> <p>(3) 看護師へ憧れを抱いた理由や魅力を明確にする、もしくはジレンマを感じた場面では問題点と望ましい対応を考察する。</p> <p>(4) 自己の課題(経験の振り返り)や成長に向けてどう努力するのかを具体的に表現する。</p> <p>(5) 他者と看護観を共有する。</p>
------------	---------------------------------------	--

科目名	単位数	時間数
小児看護学実習 I	1単位	30時間
目的 乳幼児期の成長・発達を理解し、対象の年齢や場に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。		
実習目標 1. 乳幼児期にある対象の特徴を理解する。 2. 対象に合わせたコミュニケーション技術を実践できる。 3. 健やかに育つ児に対する健康を維持・増進していく看護の必要性を理解する。 4. 実習を通し看護学生としての態度を養う。		

学習項目	学習目標	学習内容
対象理解とアセスメント	1. 対象の情報が収集できる。	1) 観察を適切に実施する。 (1)関心を持って関わる。 ①対象者に常に関心を寄せ、同じクラスでも児により発達にばらつきがある等、「小さな気づき」に焦点を当てる。 ②コミュニケーション技術を活用し、児との関係構築を図る。 ・ 接近的行動の実践・傾聴の技術・情報収集の技術 ・ 対象の年齢や発達段階に応じた言動・話題を選択 (2)適切な方法で関わる。 ①情報源を多く持つ。(対象、家族、保育士、連絡ノート 等) ②対象の発達状況や特性を理解するための情報を収集する。 2) 対象をより正確に把握するための情報を収集する。 (1)児の成長発達について情報を収集する。 ・ 形態的成長、機能的発達、知的・心理(情緒)的発達、社会性の発達(言語・コミュニケーション)、日常生活習慣の自立状況、遊び (2)親子関係・家族関係について情報を収集する。 ①養育者と児との愛着/絆、分離 ②家庭での養育状況 (3)保育施設の構造・設備、機能と役割について知る。 ①施設の構造上の特徴、設備、備品の配置、感染防止対策、安全対策、職員構成、配置基準
	2. 乳幼児期にある対象の特徴を理解する。	1) 対象の成長・発達状況を理解する。 (1)情報収集用紙に沿って情報を整理する。 (2)年齢(月齢)に応じた発達課題と比較する。 (3)児の成長・発達と、児を取り巻く環境の関連性を考察する。
生活援助技術の獲得	1. 対象に合わせた保育の意図を理解する。	1) 体験した場面(事象や状況)に対しての「気づき」をきっかけにし、対象を理解する。 (1)「おや」「どうして」と興味関心を持つ。 (2)なぜかを手掛かりに情報を収集する。 (3)その脈絡でその意味や理由を考える。 (4)提供されている保育の意味を知る。 (5)自分の理由付けについて考察する。(クリティカルシンキング)
	2. 対象の成長・発達を促す関わりが実践できる。	1) 児の個性や発達段階に応じた関わりや、健康の基盤となる日常生活習慣の獲得を促す関わりを理解する。 (1)保育士と一緒に活動するなかで、保育士の援助を既習の知識と照らして考察する。 ①保育士の児の発達に応じた関わりや、日常生活習慣の獲得を促す関わりを描写する。 ②保育士の援助の意図を、既習の知識を用いて説明する。 2) 1)を基に、児の成長・発達に適した方法で児と関わる。 (1)適切な道具や方法を選択する。 (2)保育者としてふさわしい言動 (3)自分が実践したことの効果について考察する。

	<p>3. 乳幼児の安全や健康を守り促進する関わりが実践できる。</p>	<p>1) 保育の場における危険を予測する。 (1)KYTを通して、乳幼児に起こりやすい危険に対する視点を持つ。 (2)児と関わるなかで、「ひやり」や「はっ」とした(危険を感じた)場面を振り返る。 2) 保育施設における安全対策や健康管理を把握する。 (1)児の安全を守るために行われている関わりの実際 (2)アレルギー、感染、受傷に対する予防的行動の実際 (3)身体状況を訴えることが難しい児の体調に気づく関わりの実際 (4)養育者との連携の実際 3) 児の安全を意識して援助を実施する。 (1)児の一般状態で気付いたことを保育士に報告する。 ・ 顔色、表情、機嫌、活発性、姿勢、食欲、睡眠、排泄 等 ・ 症状の有無(咳嗽、鼻汁、皮膚所見 等) ・ バイタルサイン(体温、呼吸、心拍) ※必要に応じて (2)危険を感じた場面で、その危険を回避するための行動を実施する。 (3)安全についての自身の行動について振り返る。 (4)児の体調不良や怪我等が生じた場合は、保育士と共同し適切に対応する。</p>
<p>チーム連携</p>	<p>1. 保育チームの一員として活動する。</p>	<p>1) 施設の保育目標を理解し、保育士や施設に関わる多職種と連携して保育活動に参加する。 2) チーム内で決められた約束を守り、役割を自発的に果たす。 3) チームでの活動に支援的な行動を示す。</p>
<p>態度</p>	<p>1. 看護師として、必要な態度を養うことができる。</p> <p>2. 学習者としての態度を養うことができる。</p>	<p>1) 乳幼児を保護し育むひとりの大人として、必要なマナーを実践する。 (1)その場の状況にふさわしい行動をとる。 ①子どもの意見を尊重した行動 ②子どもの安全を優先した行動 ③子どもの手本となる行動 2) 適切な情報管理を実践する。 (1)記録物の管理・記録の匿名性を遵守する。 (2)守秘義務を守る。 3) スタンダードプリコーションを確実に実践できる。 (1)手指衛生の正確な実施 (2)個人防護具の活用 (3)玩具の衛生管理の実施</p> <p>1) 予見行動をとる。 (1)実習内容・実習方法を理解して準備する。 (2)リフレクションを活かして準備する。 2) 遂行/意志コントロールの行動をとる。 (1)機会を逃さない、休まない (2)実習目標に対して日々意図的な姿勢で臨む。 ①よりよくという姿勢 ②指摘されたことや課題に対して改善して臨む。 (3)実習日程に合わせて、記録を整理する。 (4)指導・助言・カンファレンスを活用して学習を深める。 3) リフレクションをする。 (1)経験や行動を客観的に振り返り、自分に対しての課題を明確にする。 (2)グループワークやカンファレンスで学びを共有する。</p>

<p>看護観</p>	<p>1. 実習での体験から看護に対する志向を深めることができる。</p>	<p>1) レポートを作成する。 テーマ: 保育園実習での経験(具体的な場面から)を通し、「健やかな成長を支える看護」について気付いたこと (1)サブテーマをつける。 (2)影響を受けた出来事や人物との関わりを丁寧に振り返り、その時の状況、あなたの感情、そこから得られた気づき(看護に大事なこと)を言語化する。 (3)なぜその姿にあこがれるのか、どのような要素に魅力を感じるのか明らかにする。 (4)自己の課題(経験の振り返り)や成長に向けてどう努力するのかを具体的に表現する。</p> <p>2)他者と看護観を共有する。</p>
------------	---------------------------------------	--

科目名	単位数	時間数
小児看護学実習Ⅱ	1単位	30時間
目的 乳幼児期、学童期、思春期にある対象の成長・発達を理解し、対象の年齢や場に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。		
実習目標 1. 小児期にある対象の健康レベルに応じた看護の必要性を理解する。 2. 対象の特徴を理解し、対象に合わせたコミュニケーション技術を提供する。 3. 実習を通して看護学生としての態度を養う。		

学習項目	学習目標	学習内容
対象理解とアセスメント	1. 対象の情報が収集できる。	<p>1)観察を適切に実施する。</p> <p>(1)関心を持って関わる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①対象者に常に関心を寄せ、「小さな気付き」に焦点を当てる。 ②コミュニケーション技術の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 接近的行動の実践・傾聴の技術・情報収集の技術 ・ 対象の年齢や発達段階に応じた言動、話題を選択 ③対象の訴えやニーズを引き出すような関り <p>(2)適切な方法で関わる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①情報源を多く持つ(対象、家族、看護師、母子手帳 等) ②対象の発達状況や特性、疾病を理解するための情報を収集する。 <p>2)対象をより正確に把握するための情報を収集する。</p> <p>(1) 小児外来において診療場面(視診、問診、聴診、触診、打診)から対象の発達や医療状況を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 症状(自覚・他覚)、自宅での対応、活気、食欲、排泄、表情、皮膚(発赤、腫脹、乾燥、外傷、等)、運動機能発達、言語発達、身長、体重、既往歴、アレルギー 等 <p>(2) 医療型特定短期入所施設において日常生活援助場面から対象の状態を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出生時から現在までの経過、バイタルサイン、疾患に伴う症状と必要となる医療的処置内容、日常生活の実際(食事、排泄、清潔、睡眠)、児の反応(表情、訴えの表現、活気)、 等 <p>(3)診療所の構造・設備、機能と役割について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①かかりつけ医としての役割 ②診療所の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・ 構造、設備、備品の配置、感染防止対策、安全対策、看護師の役割、職員構成、来院者の特徴 ③児の発達に配慮した環境 ④児の健康レベルに応じた対応

<p>生活援助技術の獲得</p>	<p>2. 対象の健康を判断できる。</p> <p>1. 対象に合わせた援助の意図を理解する。</p> <p>2. 診療の補助技術を実施する。</p>	<p>(4)医療型特定短期入所施設の構造・設備、機能と役割について知る。</p> <p>①デイサービスを利用することの目的・効果</p> <p>②施設の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 構造、設備、備品の配置、対象者(区分、年齢、登録者数、利用時間)、感染防止対策、安全対策、看護体制、職員構成、地域連携 <p>③児の発達状況や特性に配慮した環境</p> <p>④児の健康レベルに応じた対応</p> <p>1)対象の疾患と健康レベルを把握する。</p> <p>(1)対象の児の疾患の理解</p> <p>①疾病発生の原因・誘因・経過、症状、日常生活に及ぼす影響</p> <p>②検査、治療、自宅での療養での留意点</p> <p>(2)対象の児の健康レベルについて、観察した情報から推察する。</p> <p>1)体験した場面(事象や状況)に対しての「気づき」をきっかけに、対象理解や援助の意味付けをする。</p> <p>(1)「おや」「どうして」と興味関心を持つ。</p> <p>(2)なぜかを手掛かりに、情報を集める。</p> <p>(3)その脈絡でその意味や理由を考える。</p> <p>(4)提供されている看護や医療の意味を知る。</p> <p>(5)自分の理由付けについて考察する。(クリティカルシンキング)</p> <p>1)小児外来において、診療の補助技術や検査・処置を見学・実施して、看護師の援助方法を既習の知識と照らし合わせて考察する。</p> <p>(1)対象の安全・安楽・自立に向けて以下の視点で考察する。</p> <p>①原理原則に基づいた援助技術</p> <p>②対象の発達や健康レベルに合わせた援助技術</p> <p>③ニーズに対応した援助技術</p> <p>(2)児を自宅で療養するための保健指導を以下の視点で考察する。</p> <p>①養育者が適切な対応が行えるようにする関わり</p> <p>②養育者の不安に寄り添う関わり</p> <p>③診療の場における看護師の橋渡しやアドボケート</p> <p>(3)場面に応じた診察や処置時の補助援助を実施する。</p> <p>①対象の発達段階に応じた方法での実施</p> <p>②対象の苦痛を最小限にした方法での実施</p> <p>③対象の安全を確保した方法での実施</p> <p>④対象の発達段階に応じた意思決定支援の実施</p>
------------------	---	---

	<p>3. 日常生活援助の実際を知る。</p> <p>4. 家族への関わりの必要性を理解する。</p>	<p>1)医療型特定短期入所施設でのデイサービスにおいて、必要な医療的処置や日常生活援助を見学して、看護師の援助方法を既習の知識と照らし合わせて考察する。</p> <p>(1)対象の安全・安楽・児に応じた発達の促しに向けて、以下の視点で考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①対象の特徴に合わせた援助技術の実際 ②対象や家族のニーズに対応した援助の実際 <p>1)親子関係・家族関係について以下の視点で観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①養育者と児との愛着/絆、分離 ②家庭での養育状況 <p>2)看護師の養育者への関わりについて、以下の視点で考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①養育者の疑問や不安に対する配慮 ②養育者の在宅療養を支える関わりや保健指導 ③養育者と児の関係を壊さない関わり
<p>チーム医療 (連携)</p>	<p>1. 看護チームの一員として活動する。</p>	<p>1)指導者、臨床スタッフと共同する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①指導者、臨床スタッフと関わる。 ②情報の共有をする。 <p>2)学生同士(チーム)で連携する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①チーム内で決められた約束を守り、役割を自発的に果たす。 ②チームでの活動に支援的な行動を示す。 ③チーム内で情報を共有する。 ④他者の発言を論理的に捉え、正しく批判する。
<p>態度</p>	<p>1. 看護師として、必要な態度を養うことができる。</p>	<p>1)看護師としての必要なマナーを実践する。</p> <p>(1)その場の状況に相応しい行動をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①対象を尊重し不快にさせない行動 ②子どもの安全を優先する行動 ③子どもの手本となる行動 ④養育者と医療者の信頼関係を阻害しない言動 <p>2)適切な情報管理を実践する。</p> <p>(1)記録物の管理・記録の匿名性を遵守する。</p> <p>(2)守秘義務を守る。</p> <p>3)スタンダードプリコーションを確実に実施する。</p> <p>(1)手指衛生を正確に実施する。</p> <p>(2)個人防護具を適切に活用する。</p> <p>(3)玩具の衛生管理を実施する。</p>

看護観	<p>2. 学習者としての態度を養うことができる。</p>	<p>1) 予見行動をとる。 (1) 実習内容・実習方法を理解して準備する。 (2) リフレクションを活かして準備する。</p> <p>2) 遂行/意志コントロールの行動をとる。 (1) 機会を逃さない、休まない。 (2) 実習目標に対して日々意図的な姿勢で臨む。 ① よりよくという姿勢 ② 指摘されたことや課題に対して改善して臨む。</p> <p>(3) 実習日程に合わせて、記録を整理する。 (4) 指導・助言・カンファレンスを活用して学習を深める。</p> <p>3) リフレクションをする。 (1) 経験や行動を客観的に振り返り、自分に対しての課題を明確にする。 (2) グループワークやカンファレンスで学びを共有する。</p>
	<p>1. 実習での体験から看護に対する志向を深めることができる。</p>	<p>1) レポートを作成する。 テーマ: 小児外来実習での経験(具体的な場面)を通し、「自宅で児と家族が安心して療養するための看護」について気付いたこと</p> <p>(1) サブテーマをつける。 (2) 影響を受けた出来事や人物との関わりを丁寧に振り返り、その時の状況、あなたの感情、そこから得られた気付き(看護に大切なこと)を言語化する。 (3) なぜその姿にあこがれるのか、どのような要素に魅力を感じるのかを明らかにする。 (4) 自己の課題(経験や振り返り)や成長に向けてどう努力するのかを具体的に表現する。 (5) 他者と看護観を共有する。</p>

科目名	単位数	時間数
母性看護学実習	2 単位	60 時間
目的：母性看護の特性を理解し、対象に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。		
実習目標：1. 妊娠期にある対象の理解と、その対象に行われている看護を理解する。 2. 分娩期・産褥期・新生児期にある対象の理解と、その対象に行われている看護を理解する。 3. 助産師・看護師の対象への関わりを通して、母子を取り巻く環境に適した対象への支援となるコミュニケーションを学ぶ。 4. 実習を通し看護学生としての態度を養う。		

学習項目	学習目標	学習内容
対象理解 (アセスメント力)	1.対象の情報が収集できる。	<p>1)観察を適切に実施する。</p> <p>(1)関心を持って関わる。</p> <p>①対象者に常に関心を寄せ、正常に経過するからこそ生じる問題など、「小さな気づき」に焦点を当てる。</p> <p>②コミュニケーション技術の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接近行動の実践・傾聴の技法・情報収集の技術 ・カウンセリング技術(純粋性、尊重性、共感的態度) <p>③対象の訴えやニーズを引き出すような関わり</p> <p>(2)適切な方法で関わる。</p> <p>①情報源を多く持つ(対象、家族、看護師、母子手帳 等)</p> <p>②周産期各期のアセスメント用紙を用いて、生理的に経過しているか理解するために情報を収集する。</p> <p>③フィジカルイグザミネーションの手法を利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期：腹囲・子宮底長測定、レオポルド触診 ・産褥期：バイタルサイン測定、子宮底触知、乳房触診 ・新生児期：バイタルサイン測定、身体計測、経皮ビリルビン値測定(ミノルタ) <p>2)対象をより正確に理解するための情報を収集する。</p> <p>(1)経過を把握する。</p> <p>①妊娠経過とそれに伴う身体的・心理的・社会的変化、正常な経過で生じる症状、逸脱のリスク因子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期：妊娠週数、経妊・経産数、産科的合併症、感染症、ビショップスコア、医師の指示・治療内容、保健指導、身長・体重、バイタルサイン、血液検査、超音波所見(GS、CRL、BPD、EFW、AFI)、NST 所見、胎位・胎向、マイナートラブル、仕事への影響、妊娠の経緯、妊娠への思い、家族関係 ・分娩期：妊娠週数、経妊・経産数、ビショップスコア、最終 EFW、胎位・胎向、CTG 所見、破水時間、羊水の性状、陣痛、母親の様子、家族の様子、

	<p>2.対象の健康を判断できる。</p>	<p>胎盤の状態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産褥期：経妊・経産数、分娩経過、栄養・排泄・休息・運動セルフケアの回復状況、分娩の受け止め、子宮復古状態、乳汁分泌状態、ルービンの母親役割獲得過程、育児技術の習得、医師の指示・治療内容、看護計画(クリティカルパス)/保健指導、EPDS ・新生児：身長、体重、頭囲・胸囲、外表奇形の有無、出生時の在胎週数(成熟度)、アプガースコア、分娩外傷、呼吸、循環、体温、栄養、排泄、経皮ビリルビン値、聴力 <p>(2)褥婦・新生児への日々の行動場面や状況での「気付き」から注意が向いている情報を収集する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①正常に経過していく場合に予測される今後の変化 ②正常からの逸脱の有無 <p>(3)褥婦の退院後の生活をイメージして情報を収集する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①新生児のいる生活への適応 ②家族役割が変化することへの受容 <p>1)対象の状態を整理、説明する。</p> <p>(1)アセスメントの視点ごとに情報を整理する。 〔アセスメントの視点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期：母体の状態、胎児の状態、家族役割の調整、生活への影響 ・産褥期：身体回復状況(退行性変化・進行性変化)、母親役割獲得過程 ・新生児期：子宮外生活への適応状況、発育状況 <p>(2)周産期各期の経過が生理的範囲か、あるいは逸脱(リスク含む)しているかを説明する。</p> <p>(3)(2)が対象の身体および日常生活に及ぼす影響・なりゆきを説明する。</p> <p>(4)看護の必要性(方向性)を説明する。</p>
<p>生活援助技術の獲得</p>	<p>1.看護師の援助方法を既習の知識と照らして考察する。</p>	<p>1)体験した場面(事象や状況)に対しての「気づき」をきっかけに、対象理解や提供されている看護の意味付けをする。</p> <p>(1)ウェルネスを阻害する要因が無いか、興味関心を持つ また、正常に経過していても、対象が困っていることに気付く。</p> <p>(2)なぜかを手掛かりに、情報を集める。</p> <p>(3)その脈絡でその意味や理由を考える。</p> <p>(4)提供されている看護の理由を知る。</p> <p>(5)自分の理由付けについて考察する(クリティカルシンキング) 〔各期で体験する場面〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期：診察介助、超音波検査、保健指導、腹囲・子宮底長測定、NST(レオポルド触診) ・分娩期：診察介助、レオポルド触診、陣痛測定、胎児心

	<p>2.産褥・生後の日数に応じた生活援助を実施する。</p>	<p>音聴取、産痛緩和法(呼吸法・マッサージ法)、家族への関わり、心理的サポート、基本的ニーズを満たす援助、分娩準備、分娩補助動作、分娩直後の処置・観察、母子相互作用を促す支援、家族の役割獲得を促す支援、子宮底触知、胎盤計測、諸証明の記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産褥期：乳房触診、授乳支援、子宮底触知、バイタルサイン測定、保健指導(初回授乳、沐浴、退院)、褥婦のセルフケア支援、育児技術獲得を促す支援、心理的サポート、愛着形成促進、産後うつスクリーニング、地域連携 ・新生児期：新生児蘇生・アプガースコア(分娩期)、身体測定(身長・体重)、バイタルサイン測定、ミノルタ測定、おむつ交換、更衣、沐浴、臍処置、ビン哺乳、K2シロップ服用、タンデムマス、ABR、光線療法 <p>1)助産師・看護師と共に褥婦と関わり、エモーショナルサポートを実践する。</p> <p>2)褥婦と新生児への生活援助を実践する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)実施目的を明確にする。 (2)実施目的を達成するための方法(時間・方法・観察項目・留意点)を明確にして実施する。 (3)褥婦の安全・安楽・自立を保証して実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ①産褥期の心理的变化を意識した実施 ②プライバシーに配慮した実施 ③疲労や痛みを配慮した実施 ④役割獲得や愛着形成を妨げない実施 (4)新生児の安全・安楽を保障して実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ①原理原則の実施 ②啼泣や原始反射などの反応を予測しながらの実施 ③児の権利を尊重した実施 ④基本的ニーズの充足に向けての実施 (5)実施の結果、考察から日々修正・改善した実施を展開する。 <p>3)上記の看護の方向性や対象の反応やニーズから追加ケアを計画し実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)事前に臨床側・対象に許諾をとる。 (2)対象の本日の状態・生活リズムを考慮した援助を実施する。 ※実施に際しては、2)に準じる。
<p>チーム医療(連携)</p>	<p>1.看護チームの一員として活動する。</p>	<p>1)学生同士(チーム)で連携する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①チーム内で決められた約束を守り、役割を自発的に果たす。 ②チームでの活動に支援的な行動を示す。 <p>2)指導者、臨床スタッフと共同する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指導者、臨床スタッフと関わることができる。 ②情報の共有をすることができる。

<p>態度</p>	<p>1.看護師としての必要な態度を実施する。</p> <p>2.学習者としての態度を養うことができる。</p>	<p>1)看護者としての必要なマナーを実践する。</p> <p>(1)その場の状況に相応しい行動をとる。</p> <p>①対象を尊重し不快にさせない。</p> <p>②ニーズを知ろうとする。</p> <p>③インフォームドコンセントの実施</p> <p>(2)対象のプライバシーに配慮した行動をとる。</p> <p>(3)周産期のホルモン変化の影響を考え、対象の権利を尊重した行動をとる。</p> <p>2)適切な情報管理を実践する。</p> <p>(1)記録物の管理・記録の匿名性を遵守する。</p> <p>(2)守秘義務を守る。</p> <p>3)スタンダードプリコーションを確実に実施する。</p> <p>(1)手指衛生の正確に実施する。</p> <p>(2)個人防護具を適切に活用する。</p> <p>(3)感染廃棄物を適切に取り扱う。</p> <p>1)予見行動をとる。</p> <p>(1)実習内容・実習方法を理解して準備する。</p> <p>(2)リフレクションを活かして準備する。</p> <p>2)遂行/意志コントロールの行動をとる。</p> <p>(1)機会を逃がさない。体調管理に努め適切な対処行動をとる。</p> <p>(2)実習目標に対して日々意図的な姿勢で臨む。</p> <p>①より良くという姿勢</p> <p>②指摘されたことや課題に対して改善して臨む</p> <p>(3)実習日程に合わせて記録を整理する。</p> <p>(4)指導・助言・カンファレンスを活用して学習を深める。</p> <p>3)リフレクションをする。</p> <p>(1)経験や行動を客観的に振り返り、自分に対しての課題を明確にする。</p> <p>(2)グループワークやカンファレンスで学びを共有する。</p>
<p>看護観</p>	<p>1. 実習での体験から看護に対する志向を深めることができる。</p>	<p>1)レポートを作成する。</p> <p>テーマ：臨床看護師と自己の関わり(具体的な場面)を通し、「正常な経過を支え、『母親になること』を支援する看護」について気付いたこと</p> <p>(1)サブテーマをつける。</p> <p>(2)影響を受けた出来事や人物との関わりを丁寧に振り返り、その時の状況、あなたの感情、そこから得られた気付き(看護に大切なこと)を言語化する。</p> <p>(3)なぜその姿にあこがれるのか、どのような要素に魅力を感じるのかを明らかにする。</p> <p>(4)自己の課題(経験や振り返り)や成長に向けてどう努力するかを具体的に表現する。</p> <p>(5)他者と看護観を共有する。</p>

科目名	単位数	時間数
精神看護学実習	2 単位	90 時間
目的：精神に障害をもつ対象を理解し、対象に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ		
目標： 1. 対象を取り巻く環境、医療の概要の実際と取り組みについて理解する。 2. 様々な療養の場でコミュニケーションを通して対象の生活史・人生史を理解し社会保険制度の活用や支援の実際がわかる。 3. 精神に障害のある対象がより良い生活を送るために必要な看護が提供できる。 4. 精神に障害のある対象との援助関係を発展させることができる。 5. 実習を通し看護学生としての態度を養う。		

	学習目標	学習内容
対象理解・アクセスメント	<p>1. 対象との関係を築き対象を理解するための必要な情報を収集する。</p> <p>2. 精神に障害のある対象の治療的環境と対象の不安・苦痛を理解し生活行動や生活能力への影響を理解する。</p>	<p>1) 対象と行動を共にして観察をする。</p> <p>(1) 関心を持って関わる。</p> <p>①対象に常に関心を寄せ「小さな気づき」に焦点を当てた関り</p> <p>②コミュニケーション技術の活用 接近行動の実践/傾聴の技術/情報収集の技術</p> <p>③訴えやニーズを引き出す関り</p> <p>(2) 適切な方法で関わる。</p> <p>①観察した多様な精神症状の理解</p> <p>②多様な精神症状を増強させない関り</p> <p>(3) 体験した場面（事象）に対して「気づき」をきっかけに対象理解や提供されている看護も意味付けをする。</p> <p>①「おや」「どうして」という関心を持つ。</p> <p>②なぜかを手掛かりに情報を集める。</p> <p>③その脈絡でその意味を考える。</p> <p>④提供されている看護の理由を知る。</p> <p>⑤自分の理由付けについて考察する。</p> <p>2) 自己の看護についてプロセスレコードを用いリフレクションする。</p> <p>(1) 自己の感情（肯定的・否定的）に気づく。</p> <p>(2) 自己の対象への対応、コミュニケーションの取り方の振り返り 「相手の反応」「自分の考えたこと・感じたこと」「自分の反応」</p> <p>(3) ケアをする相手の理解</p> <p>1) 対象を理解するために下記の情報を収集する。</p> <p>(1) 収集した情報をライフサイクルピクチャー、精神科アセスメントシートに整理する。</p> <p>①ライフサイクルピクチャー（生活史・人生史） 年齢/性別/婚姻状況/家族構成・背景/生育歴/学歴/職歴/結婚歴 既往歴/入院歴（入院形態）/現病歴/精神症状の有無と程度/ねがい</p> <p>②精神科アセスメントシート ADL/IADL/他者との交流/週課・日課/治療状況（薬物療法・作業療法・集団療法）/対象の療養環境</p> <p>2) 対象の人生史を可視化することにより、対象の苦悩や葛藤を理解する。</p> <p>(1) エリクソンの発達課題をもとに対象の課題の達成状況</p> <p>(2) 対象の課題の達成状況と苦悩や葛藤について</p> <p>(3) 現在の対象の生活に及ぼしている影響</p> <p>(4) 対象のレジリエンスを促進する看護</p>

	学習目標	学習内容
看護実践	1. 精神に障害のある対象がより良い生活を送るために必要な看護が提供できる。	<p>1) レジリエンスを高めるための看護を立案する。</p> <p>(1) 以下の視点を意識した計画の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ストレングス/エンパワーメント/セルフエフィカシー ② 対象の健康状態・精神状態に合わせた計画 ③ 週課・日課 (対象の生活リズム) に配慮した計画 <p>2) 対象の状態の変化に合わせ看護を実践する。</p> <p>(1) 対象の心理的安全性を保ち関わる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① インフォームドコンセントと同意行うこと。 ② 対象の意思決定を促す関ること。 ③ 患者のペースを守り相手の意見意思を確認しながら行うこと。 ④ 互いの境界は守ること。 <p>(2) 対象の反応 (結果) をもとに看護実践の評価をする。</p> <p>(3) 看護実践の評価をもとに計画の追加・修正を行う。</p> <p>3) 集団に対するレクリエーション療法の企画・運営</p> <p>(1) 参加者の健康状態の把握 疾患の特性/症状の程度/認知機能/意欲のレベル/人間関係</p> <p>(2) 集団療法の目的をふまえ企画し調整をする。</p> <p>(3) 安全管理に留意し運営をする。 リスクマネジメント (身体的・心理的リスク・環境的リスク・集団ダイナミクス)のリスク)</p> <p>(4) 対象らの自主的に取り組めるような促し 交流促進/成功体験/感情の表出/集中力の維持</p> <p>(5) 実施前の確認・実施後の報告</p>
チーム医療	1. チーム医療の一員として精神に障害のある対象との援助関係を発展させることができる。	<p>1) 地域での暮らしを継続するための看護を理解し支援に参加する。</p> <p>(1) デイケアの看護師の役割と責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 健康管理 服薬状況の確認/体調・睡眠・食事の把握/再発兆候の早期発見 ② 治療関係の継続 安心できる存在/感情の受けとめ ③ 社会復帰の支援 就労支援機関との連携/家族支援/多職種と連携し社会資源の活用福祉サービスの調整 ④ グループ支援のファシリテーター プログラムの運営/人間関係トラブルの調整/参加意欲の支援 ⑤ リスクマネジメント (再発兆候/自傷他害/服薬中断/金銭トラブル) <p>(2) 外来の看護師の役割・責任を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① セルフモニタリング支援/服薬指導/生活支援の実際 ② 診察前・中・後のための精神状態、再発のサインの観察 ③ アドボケイト ④ 守秘義務の徹底 <p>2) 精神保健医療に関わる各専門職の役割を理解する。</p> <p>(1) それぞれの専門性、置かれている状況について理解する。</p> <p>(2) 連携上の工夫や課題についてわかる。</p>

	学習目標	学習内容
態度	<p>1. 看護師として必要な態度を養う。</p> <p>2. 学習者としての態度を養うことができる。</p>	<p>(3) 地域の社会資源のつながりがわかる。</p> <p>1) 複数名で対象を受け持つため学生同士（チーム）で連携する。 (1) チーム内で決めた約束を守り、役割を自発的に果たす。 (2) チーム内での活動に支援的な行動を示す。</p> <p>2) 指導者、臨床スタッフと共同する。 (1) 適時、報告、連絡、相談の実施 (2) 精神科病棟のルールへの遵守</p> <p>1) 予見行動をとる。 (1) 実習内容・実習方法を理解して準備する。 (2) リフレクションを活かして準備する。</p> <p>2) 遂行/意志コントロールの行動をとる。 (1) 機会を逃さない・体調管理に努め適切な対処行動をとる。 (2) 実習目標に対して日々意図的な姿勢で臨む。 ①より良くという姿勢 ②指摘されたことや課題に対して改善して臨む。 (3) 実習日程に合わせて、記録を整理する。 (4) 指導・助言・カンファレンスを活用して学習を深める。</p> <p>3) リフレクションをする。 (1) 経験や行動を客観的に振り返り、自分に対しての課題を明確にする。 (2) グループワークやカンファレンスで学びを共有する。</p>
看護観	<p>1. 実習での体験から看護に対する思考を深めることができる。</p>	<p>1) レポートを作成する。 テーマ：臨床看護師と自己の関り（具体的な場面から）を通し、「看護」について気づいたこと。 (1) サブテーマをつける。 (2) 影響を受けた出来事や人物との関りを丁寧に振り返り、その時の状況あなたの感情、そこから得られた気づき（看護に大切なこと）言語化する。 (3) なぜその姿に憧れるのか、どのような要素に魅力を感じるのか明らかにする。 (4) ジレンマを感じる場面で何に問題性を感じたか、どうするべきだったかを明らかにする。 (5) 自己の課題（経験の振り返り）や成長に向けてどう成長するのかを具体的に表現する。 (6) 他者と看護観を共有する。</p>

科目名	単位数	時間数
統合実習	2 単位	90 時間
目的：チームの一員としての自覚を高め、複数患者の受け持ちを通して、知識・技術・態度を統合し看護実践能力を高める。		
目標： 1. 看護管理について学び看護職の持つ知識と技術の有効性を発揮するための仕組みを理解する。 2. 複数の対象を受け持ち、優先順位を考え対象の個別性に合わせた看護日常生活援助を実践できる。 3. 受け持ち対象に合わせた診療の補助技術を安全に体験・実践できる。		

項目	実習目標	学習内容・方法
チーム医療	1. 看護管理について学び看護職の持つ知識と技術の有効性を発揮するための仕組みを理解する。 2. チームナーシングの実際を理解する。	1) 看護管理システムについて実際を通し管理の重要性を学ぶ。 (1) 病院組織と看護部の位置づけ 組織成立のための条件 (目的・協働意欲・コミュニケーション) (2) 管理の対象 「ひと」「もの」「かね」「時間」「情報」管理について (3) 看護管理過程 データ収集・計画立案・組織化・職員配置・指導・統制 (4) チームナーシングの実践に必要なリーダーシップとフォロワーシップの能力概念 ①リーダーシップスタイル 専門的能力・対人化能力・概念化能力 ②フォロワーシップスタイル リーダーを支援する・批判する能力 (5) 人的資源の管理 ②労働環境の整備・労働安全衛生の実際 2) それぞれの役割における医療安全と医療の質の保証 (1) 臨床における手順のマニュアル化 (2) 教育とスキルの向上 (3) 事故の報告と分析 (4) 安全文化の醸成と倫理的判断 1) チームナーシングの実際を体験・実施し理解を深める。 (1) リーダー業務とメンバー業務の連携・共同 (2) メンバー業務の看護師が複数の対象を受け持つ際の優先順位の根拠やタイムマネジメントの方法・共同 (3) チームの看護師が対象に行う援助の根拠や意図・考察 2) 他職種の専門性を理解し他職種と連携し支援する。 (1) 患者の目標・支援について共有 (2) 目標達成に向けた共同
対象理解・アセスメント	1. 複数の対象を受け持ち、優先順位を考え対象の個別性に合わせた看護の実際	1) 複数の対象を理解するための必要な情報を収集 (1) 機能的健康パターンに基づき観察して得られた情報をアセスメントの視点ごとに整理する。 2) 問題の明確化 (1) 情報 (事実) の説明 (2) 直面している状況 (逸脱) はなぜ起こったのか原因、誘因の追求 (3) この逸脱した状態の身体及び日常生活への影響・成り行き

<p>安全な看護の提供</p>	<p>が理解できる。</p> <p>1. 看護チームの一員として対象の個別性に合わせた看護が安全に実践できる。</p>	<p>(4) 看護問題を明確にする。 中間カンファレンス： テーマ「受け持ち対象をどのように捉えたか」</p> <p>1) 複数の対象へチームナーシングを以下の視点で実践する。 (1) 複数の対象への実践のため業務計画を作成する。 (2) リーダーシップ・フォロワーシップの役割を意識し作成する。 (3) 援助の必要性、方法・観察・留意点が明確で、根拠に基づいた計画を立てる。 (4) 立案した内容の妥当性を、実施前評価にて臨床判断（倫理的判断も含む）明らかにし、適宜追加修正を行う。 (5) 対象に応じた看護実践についてグループ間で共有し、カンファレンスを主体的に運営しリフレクションする。 (6) 得た対象の情報や、実施した援助についてのリフレクションを活かし、翌日の業務計画に反映させる。 (7) 看護計画の目標に対して、リフレクションの視点で評価をする。 (8) 看護管理の実際を通して自己の看護活動について省察する。 最終カンファレンス テーマ「チームナーシングの実践の振り返りと自己の課題」 ～看護計画の評価を受けて～</p> <p>2) 安全意識に基づいた診療の補助技術を以下の視点で実践する。 (1) インフォームドコンセントを実施する。 (2) 実践可能か否かの判断をし、看護師へ確認する。 (3) 立案と予習に基づき、安全・安楽に実施する。 ①正しい手順 ②留意点、工夫点の理解 ③正確な機械器具の取り扱い ④実施前・中・後の観察 ⑤継続か中断かの判断 ⑥終了後の観察、事実を報告する。</p> <p>～体験する診療の補助技術～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経口与薬（薬物管理、服薬確認、服薬後の観察）経皮・外用薬投与前後の観察 ・ 注射（注射器と注射針の取り扱い、薬液の吸い上げ準備） ・ 点滴静脈内注射の管理 ・ 麻薬管理の実際と麻薬を投与されている患者の観察 ・ 輸血の準備確認、前・中・後の観察 ・ 検査・処置への準備と介助 (検体採取とその取り扱い。但し採血は不可)
<p>態度</p>	<p>1. 専門職として責任ある態度</p>	<p>1) 対象の安全を最優先に以下の視点で行動する。 (1) 自己の行動が患者の安全に直結する自覚を持つ。 (2) 不明な点は曖昧にせず確認行動をとる。 (3) 感染対策を徹底する。</p> <p>2) 倫理的判断を行い以下の視点で適切に行動する。 (1) 患者・家族・医療者のそれぞれの立場の倫理的課題 (2) 倫理的課題に気づき、患者の尊厳を守る行動 (3) 倫理的葛藤が生じ判断が困難じの相談</p>

<p>看護観</p>	<p>2. 学習者としての態度意識し行動できる。</p> <p>1. 実習での体験から看護にたいする志向を深めることができる。</p>	<p>3) チーム医療の一員としての自覚を持ち以下の視点で行動する。</p> <p>(1) 時間の管理を行い計画的な行動</p> <p>(2) チームの一員として自己の役割を考えた行動</p> <p>(3) 適時、正確に記録と報告の実施</p> <p>(4) チームでより良い看護を提供するためにアサーティブなコミュニケーションの心がけ</p> <p>1) 予見行動をとる。</p> <p>(1) 実習内容・実習方法を理解しての準備</p> <p>(2) リフレクションを活かして準備</p> <p>2) 遂行/意志コントロールの行動をとる。</p> <p>(1) 機会を逃さない・体調管理に努め適切な対処行動</p> <p>(2) 実習目標に対して日々意図的な姿勢で臨む。</p> <p>①より良くという姿勢</p> <p>②指摘されたことや課題に対しての改善行動</p> <p>(3) 実習日程に合わせて、記録の整理</p> <p>(4) 指導・助言・カンファレンスを活用して学習の深化</p> <p>3) リフレクションをする。</p> <p>(1) 経験や行動を客観的に振り返り</p> <p>(2) 自分の課題の明確化</p> <p>(2) グループワークやカンファレンスで学びの共有</p> <p>1) レポートを作成する。</p> <p>テーマ：臨床看護師と自己の関り（具体的な場面から）を通し、「看護について気づいたこと。</p> <p>(1) サブテーマをつける。</p> <p>(2) 影響を受けた出来事や人物との関りを丁寧に振り返り、その時の状況あなたの感情、そこから得られた気付き（看護に大切なこと）言語化する。</p> <p>(3) なぜその姿に憧れるのか、どのような要素に魅力感じるのか明らかにする。</p> <p>(4) ジレンマを感じる場面で何に問題性を感じたか、どうすべきだったか明らかにする。</p> <p>(5) 自己の課題（経験の振り返り）や成長に向けてどう成長するのかを具体的に表現する。</p> <p>(6) 他者と看護観を共有する。</p>
------------	---	---